

平成 27 年 4 月 1 日

Ver.1

## 医学研究倫理審査の申請に関する手順書

藤田保健衛生大学医学研究倫理審査委員会

### 1. 新規申請の方法

申請者は、研究を開始する前に、下記の申請書類を作成し、学長宛てに申請してください（原本 1 部、コピー 1 部および電子ファイル [ファイル形式は下記参照]）。申請の窓口は医学研究倫理審査委員会事務局（研究支援推進センター 臨床研究支援推進室内）です。なお、利益相反に関する審査が必要な場合は、本申請と同時に、利益相反委員会への審査申請を行ってください（窓口は同じです）。

<作成書類> 1) 「医学研究倫理審査申請書 [様式例 1 新規申請]」（Word のみ）

<添付書類> 1) 研究計画書（PDF 可）  
2) 説明文書（※文書により同意を得る場合。PDF 可）  
3) 同意書（※文書により同意を得る場合。宛名は研究責任者。PDF 可）  
4) 情報公開文書（※研究情報の公開・オプトアウトを行う場合）

<記載上の注意>

- ・申請書および申請書に添付する文書（研究計画書、説明文書・同意文書など）は、A4 横書きで様式は自由とします。様式例を参考にしてください。
- ・作成に際しては、別途定める「医学研究倫理審査委員会の申請書類の記載にあたっての留意点」に従ってください。
- ・すべての書類につき、それぞれ 2 ページ以上になる場合は、各書類にページ番号を付けてください。
- ・書類の印刷は、できるだけすべて片面印刷あるいは両面印刷で統一してください。
- ・医学・医療系以外の委員も申請書類を見て審査をします。略語は使用せず、重要な専門用語には説明をつけるなど、分かりやすい表現を心がけてください。

### 2. 申請から審査の終了まで

本委員会は、「藤田保健衛生大学医学研究倫理審査委員会規程」にしたがって開催されます。必要に応じて、申請者に説明および意見を求めることがあります。また、利益相反委員会へ同時に申請されている場合、本委員会は個人情報の保護を遵守しつつ、慎重かつ適

切な範囲内で、利益相反委員会と情報交換を行うことがあります。

本委員会から学長への審査結果の報告は、通常、申請の受付から、迅速審査の場合は 4 週間程度、一般審査の場合は 8 週間程度を予定しています。ただし、申請書類の不備等により審査に支障が生じた場合、不備が修正されるまで受付・審査ができないことがあります。また、利益相反委員会へ同時に審査申請されている場合はその結果を待つことがあります。これらの場合は報告が遅れますので、ご注意ください。

審査の結果は、学長から申請者へ文書で通知されます。

### 3. 承認から研究の終了（中止）まで

学長の申請内容に対する承認は、文書による承認日以降、申請書記載の研究期間の終了日まで有効となります。

#### (1) 定期報告について

本委員会で承認された研究について、年 1 回の定期報告が必要です。「定期報告 [様式例 3 定期報告]」（原本 1 枚）を医学研究倫理審査委員会事務局へ提出してください。

#### (2) 研究計画や申請内容の変更が生じる場合（変更申請の方法）

研究計画や申請内容に変更する場合、速やかな変更申請が必要です。下記の申請書類（原本 1 部、コピー 1 部および電子ファイル [ファイル形式は下記参照]）を作成し、医学研究倫理審査委員会事務局へ提出してください。

<作成書類> 1) 「医学研究倫理審査申請書 [様式例 2 変更申請]」（Word のみ）

<添付書類> 1) 研究計画書、説明文書、同意書等、新規申請の場合と同様。

※すべて変更後の内容で作成する。

2) 医学研究倫理審査結果通知書のコピー

（承認済みの、変更前の研究のもの）

#### (3) 有害事象報告

重篤な有害事象が発生した場合は、「藤田保健衛生大学 人を対象とする医学系研究に係る重篤な有害事象の取扱いに関する細則」に基づいて対応してください。また、「重篤な有害事象報告書 [様式例 5 有害事象報告]」（原本 1 部）を医学研究倫理審査委員会事務局へ提出してください。

#### (4) 研究の実施の適正性及び研究結果の信頼性の確保に関する報告

研究責任者は、委員会で審査を受けた研究のうち、侵襲（軽微な侵襲を除く。）を伴う研究であって介入を行うものにつき、ア)「研究の実施の適正性」若しくは「研究結果の信頼を損なう」事実若しくは情報又はイ)「損なうおそれのある情報」を得た場合は、当該情報に関する報告書（書式自由。原本1部。）を医学研究倫理審査委員会事務局へ提出してください。

※「 」内の用語については、文末に注があります。

#### (5) 終了／中止時

研究を終了／中止した場合には、速やかな終了／中止報告が必要です。「終了／中止報告 [様式例4 終了（中止・中断）報告]」（原本1枚）を医学研究倫理審査委員会事務局へ提出してください。

※注：3（4）の用語について

ア)「研究の実施の適正性」を損なう事実や情報とは、研究の実施において、研究計画に基づく研究対象者の選定方針や研究方法から逸脱した等の事実や情報を指します。

また、「研究結果の信頼を損なう」事実や情報とは、研究データの改ざんやねつ造といった事実や情報を指します。

イ)「損なうおそれのある情報」とは、上記のような内容を知り得てから、事実であるか確定に至っていない情報をいいます。

以 上



平成 29 年 4 月 1 日

## 藤田保健衛生大学利益相反マネジメントポリシー

藤田保健衛生大学利益相反委員会

藤田保健衛生大学（以下、本学という）においては、個人の尊厳と人格の尊重を理念とし、社会の理解と信頼を得て、産学官連携活動を含む研究等の活動を活発かつ適正に推進するために、利益相反マネジメントを実施する。

### （利益相反）

研究等の活動に係る利益相反は、研究等の活動を実施する者が、実施する研究等の活動によって得られる利益あるいは責務と、良識に基づく教育・研究等の実践者としての大学人の責務又は最善の医療を提供する医療従事者としての責務等が相反する危険性を伴う状況をいう。研究等の活動の実施にあたって、不可避免的に生ずることが多く、適切にマネジメントすべきものである。

### （利益相反マネジメント）

本学の利益相反マネジメントは研究等のすべての活動を対象とする。利益相反について、すべての研究者等が年 1 回の申告を、人を対象とする医学系研究および他のマネジメントを要する活動では適宜申告を行い、利益相反委員会が審査および必要な助言や指導を行い、その透明性を確保して適切な管理を図る。

### （利益相反委員会）

本学の利益相反委員会は医学・医療の専門家等、倫理学・法律学の専門家等、および、本学に所属しない第三者で構成され、中立的な立場で審査を行う。

### （申告事項）

申告事項は、研究等の活動に係る企業や営利を目的とした団体からの申告者および生計を一にする配偶者と一親等の親族への経済的な利益関係である。たとえば、役員・顧問職の有無と報酬額、株の保有とその株式から得られる利益（株式（公開・未公開を問わない）、出資金、ストックオプション、受益権等のすべてを含む）、特許権使用料として支払われた報酬、会議の出席（発表）で拘束した時間・労力に対して支払われた日当、講演料などの報酬、パンフレットなどの執筆に対して支払われた原稿料、治験・共同研究・受託研究などの研究費、奨学（奨励）寄付金、寄附講座、研究員の受け入れ、機器の貸与、その他の研究等の活動とは無関係な旅行・贈答品などの受領を含む。

### （個人情報保護）

申告された個人情報は利益相反委員会で厳格に管理され、利益相反マネジメント以外に使用されない。



# 藤田保健衛生大学利益相反マネジメント規程

施行 平成28(2016).4.1

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この規程は、藤田保健衛生大学(藤田保健衛生大学各病院、研究所を含む)(以下、本学という)の研究における利益相反を適切に管理し、社会の理解と信頼を得て、本学の研究の推進を図ることを目的とする。

### (利益相反マネジメントの対象)

第2条 利益相反マネジメントの対象は、本学に所属する職員その他が行う研究及びその他第5条に規定する委員会が第16条第3号に規定する活動(以下、研究等という)とする。

## 第2章 利益相反マネジメント推進体制

### (利益相反マネジメント最高管理責任者)

第3条 本学の利益相反マネジメントに係る最終の責任者として最高管理責任者を置く。  
2. 最高管理責任者は、学長をもって充てる。

### (利益相反マネジメント総括管理責任者)

第4条 最高管理責任者を補佐し、利益相反マネジメントに係る運営の実質的な責任と権限を持つ者として、総括管理責任者を置く。  
2. 総括管理責任者は、第9条に規定する委員長をもって充てる。

## 第3章 利益相反委員会

### (設置)

第5条 本学に、藤田保健衛生大学利益相反委員会(以下、委員会という)を置く。

### (役割)

第6条 委員会は、研究等の利益相反を審査するとともに、その他利益相反マネジメントに係る事項を審議する。

### (組織)

第7条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 医学・医療の専門家等、自然科学の有識者
- (2) 倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者

- (3) その他第9条に規定する委員長が推薦する者
2. 委員は5名以上とし、男女両性をもって構成するほか、本学に所属しない者を含むものとする。
  3. 第1項の委員は、学長が候補者を選出し、理事長が任命する。
  4. 委員が審査の対象となる研究等に従事するときは、次の各号に掲げる職務に従事することはできない。
    - (1) 当該研究等に係る第13条第1項に定める審査及び第12条に定める議決
    - (2) 当該研究等に係る第14条第1項に定める事前審査並びに第14条第2項に定める持ち回り審査及び議決

(任 期)

第8条 委員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。

2. 前項の委員に欠員が生じたときは、その都度補充する。なお、この場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第9条 委員会に委員長を置き、委員のうちから学長が指名する者をもって充てる。

2. 委員長は委員会を招集し、議長となる。

(事務局)

第10条 委員会の事務局は、研究支援推進センター 研究支援推進センター事務室内に置き、事務局員は研究支援推進センター 研究支援推進センター事務室の室員が当たる。

(開 催)

第11条 委員会は必要に応じて、随時開催する。

2. 委員会の開催には、委員総数の過半数の出席を要する。

(議 決)

第12条 委員会の議事は、出席した委員の3分の2以上の議決により決するものとする。

ただし、出席した委員全員の同意が得られないときは、少数意見を議事録に付記しなければならない。

## 第4章 研究等の利益相反の審査

(審査方法)

第13条 委員会は、研究等の利益相反に関する申告書に基づき、研究等の利益相反を審査し、研究等の実施責任者に必要な助言又は指導を行う。

2. 委員会は研究等の実施責任者に研究等の説明を求めることができる。

(事前審査)

第14条 委員会があらかじめ指名する委員による研究等の利益相反の審査（以下、事前審査という）を行うことができる。

2. 事前審査にて、委員会の審査を要しないと前項の委員が判断した研究等については、各委員の持ち回りで審査と議決を行うことができる。
3. 委員は委員長に対し、持ち回りで審査と議決を行うことについて、異議を申し立てることができる。なお、委員長は、異議の申立てに正当な理由があると認めるときは、前項の定めにかかわらず、委員会の審査を要するものとする。

(審査結果)

第15条 委員長は、研究等の利益相反の審査終了後、速やかにその審査結果を文書にて、学長に報告しなければならない。

## 第5章 利益相反マネジメントに係る事項の審議

(利益相反マネジメントに係る事項)

第16条 委員会は、研究等の利益相反の審査のほか次に掲げる事項を審議する。

- (1) 利益相反マネジメントポリシー
- (2) 利益相反マネジメントに関する規程等
- (3) 利益相反マネジメントの対象とする研究以外の活動
- (4) 利益相反マネジメントのための調査
- (5) 利益相反マネジメントに関する教育・研修
- (6) その他利益相反マネジメントに関する事項

(持ち回り審議)

第17条 前条各号に掲げる事項の審議について、急を要する場合、委員長の判断により、各委員の持ち回りで審議と議決を行うことができる。

## 第6章 雑則

(意見の聴取)

第18条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第19条 委員は、委員会で知り得た情報について業務に従事しなくなった後も含め秘密を厳守しなければならない。

2. 前条の規定により委員会に出席を求められた者及び委員会の事務に携わる者は、前項の規定を準用する。

## 附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

なお、この規程の施行に伴い、平成21年4月1日施行の藤田保健衛生大学利益相反委員会規程は廃止する。

## 別紙

### 平成 28 年度の主な研修内容

#### 1) 研究セミナー 全3回

- ・ 第1回「臨床研究賠償保険について」  
株式会社カイトー
- ・ 第2回「医学統計学～研究に必要な基礎とトピック～」  
医学部衛生学 教授 橋本 修二 先生
- ・ 第3回「遺伝子組換え実験に関する法令に準拠した安全な実験を行うために」  
医療科学部リハビリテーション学科 講師 三浦 恵二 先生

#### 2) 倫理セミナー 全1回

- ・ 第1回「医学系研究の倫理-概要と法制化に向けて-」  
医学部病理学Ⅱ 教授 松浦 晃洋 先生



2016年度（平成28年度）藤田リハビリテーション医学・運動学研究会 研修会開催状況について  
研修会開催（9回開催）

第172回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2016年4月15日（金）17:30-19:00

1）講師：東京農工大学教授 近藤敏之先生

演題名：運動機能回復に向けた情報工学的アプローチについて

2）講師：東京大学医学部附属病院リハビリテーション科特任助教 四津有人先生

演題名：小児の動作解析（仮）

\*座長：東京大学人工物工学研究センター教授 太田 順先生

会場：藤田保健衛生大学病院 403 会議室

参加者：93名

第173回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2016年6月15日（水）18:00-19:00

講師：藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科教授 武地 一先生

演題名：認知症への包括的アプローチ

会場：藤田保健衛生大学病院403会議室

参加者：111名

第174回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2016年7月15日（金）18:00-19:00

講師：Yun-Hee Kim 先生

Professor

Department of Physical and Rehabilitation Medicine

Samsung Medical Center Sungkyunkwan University School of Medicine

演題名：The Patient-specific Noninvasive Brain Stimulation: A Novel Neurorehabilitation Strategy for Enhancing Functional Recovery after Brain Disease

会場：藤田保健衛生大学医学部500人ホール

参加者：107名

第175回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2016年8月5日（金）18:00-19:00

講師：琉球大学整形外科学教授 金谷文則先生

演題名：四肢先天異常の治療戦略-上肢先天異常を中心に

会場：藤田保健衛生大学病院402会議室

参加者：85名

第176回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2016年9月16日（金）18:00-19:00

講師：藤田保健衛生大学医学部呼吸器外科学講座教授 星川 康先生

演題名：肺移植 - 現状と課題 -

会場：藤田保健衛生大学病院403会議室

参加者：79名

第177回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2016年11月28日（月）18:00-19:00

講師：名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 教授 横山清子先生

演題名：モーションキャプチャを活用した身体状態の可視化

会場：藤田保健衛生大学医学部1号館500人ホール

参加者：100名

第178回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2017年2月17日（金）18:00-19:00

講師：Francesca Gimigliano, MD, PhD (Associate Professor of Physical and Rehabilitation Medicine Second University of Naples)

演題名：Postural training in performing arts

会場：藤田保健衛生大学病院403会議室

参加者：69名

第179回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2017年3月10日（金）18:00-19:00

講師：名古屋市立大学整形外科学教室 教授 大塚隆信先生

演題名：温度と運動器

会場：藤田保健衛生大学病院 外来棟503会議室

参加者：71名

第180回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会

2017年3月31日（金）18:00-19:00

講師：大分大学 福祉健康科学部 教授・副学部長 大分大学医学部附属病院診療教授 片岡晶志先生

演題名：リハ室でしばしば経験する運動器疾患の問題点～ピットフォールを中心に～

会場：藤田保健衛生大学病院 外来棟402会議室

参加者：69名

以上、報告いたします。2017年5月12日

藤田リハビリテーション医学・運動学研究会事務局担当 早川美和子

【プラクティカルコース】

臨床能力段階						
		STEP1 の到達を目指す	STEP2 の到達を目指す	STEP3 の到達を目指す	STEP4 の到達を目指す	STEP5 の到達を目指す
		S5 を目指す (到達年数：最短1年、標準1年)	S4 を目指す (到達年数：最短1年、標準2年)	S3 を目指す (到達年数：最短2年、標準3年)	S2 を目指す (到達年数：最短2年、標準3年)	S1 を目指す (到達年数：最短2年、標準4年)
臨床能力項目	看護実践	新人看護職員研修	急変対応力アップ I	急変対応力アップ II	静脈注射レベル 3 フォローアップ	
	役割遂行		患者の立場に立つ看護	働きやすい職場づくり キャリアプランを考える	指導スキル（カンファレンスの進め方）	病院組織における看護管理者の役割
	コミュニケーション		自分を知る		チーム STEPPS	看護管理者のコンピテンシーモデル
	教育研究		看護研究コース I 看護研究コース II			
	看護倫理			エンド・オブ・ステージにおけるケア	組織の問題解決	

平成 28 年度 院内教育計画

【マスターコース】

	STEP2 の到達を目指す	STEP3 の到達を目指す	STEP4 の到達を目指す	STEP5 の到達を目指す
認知症看護	① 認知症の人のもてる力を活かしたケアの実践	① 手術、術後せん妄のケアのポイントを学ぼう		
スキンケア	① DESIGN-R 評価によるアセスメントと適切な対応	① 高齢者の脆弱な皮膚を守るためのケア		
糖尿病看護	① 血糖コントロール薬を安全に適切に	① 糖尿病患者の療養生活指導		
退院支援		① 退院支援・退院調整は早めの介入から	① 多職種の強みを活かした退院支援	
看護管理			① 状況対応リーダーシップモデルを用いたコーチング	① 看護管理に必要な経営的視点

## 2. 教育内容

### 1) プラクティカルコース

ラダー認定を受けるために必要な知識技術の修得に繋がる教育であり、アカンタビリティやコンピテンシーの内容を含むもので構成されている。

### Step 2 の到達を目指す教育

#### 自分を知る

##### 「自分を磨き高める『気づき』」

時間：6月9日（木） 9：00～11：00

10月28日（金） 9：00～11：00

目的：

- 1) 自分の思考や行動そのものを自ら客観的に捉え、患者や職場のスタッフ等との関わり合いを大切に表現を行う。

目標：

- 1) 自分の看護について客観的に自らが認識し、見直すことができる。
- 2) 安全管理の視点で、自分にとってあるべき看護について自らが認識し実践することができる。

内容：

- 1) グループごとに事例のロールプレイを行い、各自の看護についてのグループディスカッションを行う。
- 2) 各自の実践している看護を意識し、客観視することでより良い自身の看護を発見する。

事前課題：

- 1) テーマ「自分と同じ経験年数で安全意識が高いスタッフの行動特性はどのような特徴があるか」と考えるか
- 2) 所定用紙（資料1）に記載し、当日持参する。

#### 急変時対応力アップ I

##### 「発見から二次救命処置まで」

時間：10月4日（火） 9：00～11：00 13：00～15：00 （各回 定員 20人）

2月2日（木） 9：00～11：00

目的：

- 1) 患者の変化する状態（急変）の前駆症状を効果的に発見し、急変に至る前段階で早期対応できる知識・技術を修得する。

目標：

- 1) 患者の変化する状況（急変）の前駆症状を効果的に発見できる観察方法を学ぶ。
- 2) 患者の状態変化を言語化し、SBARにそって応援要請・報告ができる。
- 3) 割り当てられたメンバーの役割を実施することができる。
- 4) 救急処置を行う際に、効果的なチームコミュニケーションをとることができる。

内容：

- 1) グループごとに急変時の事例のロールプレイを行い、その対応方法についてグループディスカッションをする。
- 2) 急変時の必要かつ適切な知識と技術をグループで確認し合い修得する。

事前課題：

- 1) 緊急蘇生の方法について各種のアルゴリズム（BLS/AED）とSBARについて再確認する。
- 2) 事前課題（1ヵ月前に配布）を読み、所定用紙（資料1）にアセスメントを記載し当日持参する。

## 患者の立場に立つ看護

### 「看護の視点から、看護を考えよう」

時間：12月8日（木） 9：00～11：00 13：00～15：00 （定員 25 人）

目的：

- 1) 患者の立場に立った看護とは何かが分かり、今後の看護に活かす。
- 2) 患者体験を通して患者の気持ちに沿った看護を実践する。

目標：

- 1) 事例を通して自身の看護が患者の立場に立っているかを振り返ることができる。

内容：

- 1) 事例のロールプレイを行い、看護師の立場で「実施したケア」・患者の立場から「受けたケア」に対して振り返り、事前課題を用いて、患者に対する看護実践に必要な事についてディスカッションを行う。

事前課題：

- 1) テーマ「患者との関わりの中で、患者の立場に立った看護ができなかった経験」
- 2) 所定用紙（資料1）に記載し、当日持参する。

## 看護研究 基本コース I

### 「文献クリティーク」

時間：7月7日（木） 9：00～11：00 （定員 20 人）

9月6日（火） 9：00～11：00 （定員 20 人）

目的：

- 1) 研究を行う上で文献レビューの重要性と実践について理解できる。

目標：

- 1) さまざまな研究方法で書かれた論文を読んでいくという作業を通して、研究デザインや理論・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について理解を深めることができる。
- 2) 研究課題の選択や吟味の方法を理解することができる。
- 3) 自分の関心のある（問題意識などを持つ）事項の研究の文献を読み最新の知見の概要を知ることができる。

内容：

- 1) 先行研究を使用し、研究結果の妥当性を検討する。
- 2) 今後の自分たちの取り組むべきテーマや課題の見つけ方、研究方法の基礎を学ぶ。
- 3) よい研究、よい論文の見分け方を学ぶ。

事後課題：

- 1) テーマ「自身の関心、興味のあるテーマの研究論文を読みクリティークする」
- 2) 当日配布する所定用紙に記載し、研修1か月後に提出する。

その他

- 1) 看護研究 基本コース I は、どちらかの日程で1回受講する。
- 2) 看護研究 基本コース I を受講する場合は、続けて看護研究 基本コース II を受講すること。

## 看護研究 基本コースⅡ

### 「文献検索方法」

時間：11月17日（木） 9：00～10：30 （定員20人）

2月16日（木） 9：00～10：30 （定員20人）

目的：

- 1) 課題を解決するために、文献や資料を検索でき、その要点を整理する能力を身につける。

目標：

- 1) 看護学会における主要科学論文誌を認識し、文献検索ツール等を使いこなし、課題に関連する有益情報を適切に抽出、整理できる。

内容：

- 1) 「文献」とその必要性について学ぶ。
- 2) 文献検索（医中誌webを中心に）とデータベースの基礎知識を学ぶ。
- 3) 文献の入手と図書室利用方法を学ぶ。

事前課題：

- 1) 自身の関心、興味のある看護に関連するキーワードを5つ用意する。
- 2) 所定用紙（資料1）に記載し、当日持参する。

その他

- 1) 看護研究 基本コースⅡは、どちらかの日程で1回受講する。
- 2) 看護研究 基本コースⅡは、基本コースⅠを受講したもののみが参加できる。

## Step 3 の到達を目指す教育

### 急変時対応力アップⅡ

#### 「急変を最短で見抜く」

時間： 8月 2日（火） 9：00～11：00 13：00～15：00 （定員 30人）

目的：

- 1) 急変に結びつく危険な徴候を理解し、適切な対応を修得する。
- 2) 急変場面でのリーダーシップを養う。

目標：

- 1) 急変時の身体の変化を理解し、初期評価、一次評価、二次評価が実施できる。
- 2) 急変時に適切な対応を実践することができる。
- 3) 急変時の家族への対応を考えることができる。
- 4) 急変時におけるリーダー看護師の役割を考えることができる。

内容：

- 1) 急変時の事例をもとにシミュレーションを行う。
- 2) 実践した場面を振り返り、急変時の適切な対応の在り方を検討する。
- 3) 急変場面でのリーダーの具体的な役割について検討する。

事前課題：

- 1) 急変時の対応の方法について、各自事前学習を行う。
- 2) 所定用紙（資料1）に記載し当日持参する。

### 働きやすい職場づくり

#### 「教え、育てる職場づくり」

時間： 8月 25日（木） 9：00～11：00

11月 29日（火） 9：00～11：00

目的：

- 1) 職場における、教育的環境について考え実習生・後輩を育成できる病棟作りができる。

目標：

- 1) 自分の病棟の現在の環境について客観的視点で評価することができる。
- 2) 自分の教育についての考えを明確にできる。
- 3) 病棟における自分の役割を考えることができる。
- 4) 専門職として教育的環境を整える方法が分かる。

内容：

- 1) 自分のセクションにおける教育的環境について、新人看護職員の指導や看護実習生の受け入れについて現状を分析する。
- 2) 教えること、育てることの意味・違いについて、PNS のパートナーシップにおける人材育成について考える。
- 3) 教育的視点で接遇を実践する意義を理解し、ディスカッションを通して指導観を深めていく。

事後課題：

- 1) テーマ「研修を踏まえ、病棟での後輩指導に対して取り組んでいること」
- 2) 所定用紙（資料2）に記載し、研修3か月後に提出する。

## キャリアプランを考える 「自分の道しるべは何か」

時間： 9月 29日（木） 9：00～11：00

12月 1日（木） 9：00～11：00

目的：

- 1) より良い結論を求めるための議論を行う上で必要となる知的能力や意思決定能力を養う。
- 2) 今後の看護師としての方向性について考える機会となる。

目標：

- 1) 物事を分析する能力、状況にあわせて判断する能力、自分の主張を論理的に構成する能力を養うことができる。
- 2) 自分のキャリアプランの道しるべを考え、発見することができる。

内容：

- 1) あるテーマについて否定側と肯定側に分かれてディベートを行う。
- 2) ディベートを通して、自分のスキルアップの目指すもの、キャリアプランの道しるべを考える。

事前課題：

- 1) テーマ「自分のキャリアプランと自分の目指す看護師」
- 2) 所定用紙（資料3）に記載し、1週間前に提出する。

## エンド・オブ・ステージにおけるケア 「死と向き合う患者の思いを支える看護」

時間：10月13日（木） 9：00～11：00

目的：

- 1) 終末期ケアを通して患者の尊厳を理解し、エンド・オブ・ステージにおける効果的な看護ケアを養う。

目標：

- 1) 終末期にある患者と家族の心に響く、関わりが理解できる。
- 2) 看護師自身の感情の保ち方を通し、コミュニケーションの取り方が理解できる。
- 3) 臨床現場における倫理的な感受性を育む行動が実践できる。

内容：

- 1) 終末期におけるコミュニケーションの基本姿勢について学ぶ。
- 2) 「声をかけづらい場面」でのコミュニケーションについて学ぶ。
- 3) 「デスカンファレンスの在り方（すすめ方）」を事例展開する（グループディスカッション）。

事前課題：

- 1) テーマ「エンド・オブ・ステージにおけるケアを実践するうえで、悩んだり解決できなかったりしたこと、また、患者家族から学んだこと」
- 2) 所定用紙（資料1）に記載し、研修1週間前に提出する。

## Step 4 の到達を目指す教育

### 静脈注射レベル3 フォローアップ

時間： 6月30日（木） 9：00～11：30

目的：

- 1) 最新の医学および薬剤知識、薬剤投与における看護について学び、根拠に基づいた静脈注射を実施する。

目標：

- 1) 薬剤に関連する最新知識を得、安全に実施できる。
- 2) レベル3 認定に対する責任を自覚し、薬剤投与に関する看護実践ができる。

内容：

- 1) 事前課題として取り組んだ薬剤・輸血などレベル3に関する薬剤知識を基に事例を提示する。
- 2) 事例から導き出される看護について考える。

事前課題：

- 1) 自セクションで過去1年間に起こった静脈注射レベル3の薬剤に関するインシデントを振り返り、自己の果たすべき役割について所定用紙に記載する。
- 2) テーマは自由に記載する。
- 3) 所定用紙（資料1）に記載し、当日持参する。

受講の条件：

- 1) レベル3 認定後3年以上経過しているものを対象とする。
- 2) 認定後5年以内にフォローアップを受講し、更新とする。

### 指導スキル

#### 「カンファレンスを上手く進めよう」

時間： 7月28日（木） 9：00～11：00

目的：

- 1) 指導におけるファシリテーターの役割・条件・技術を修得し、職場での多職種カンファレンスで実践する。

目標：

- 1) 相手から多様な意見を引き出す指導が実践できる。
- 2) メンバーの相互理解や協働を促し、成果につながる指導ができる。

内容：

- 1) ファシリテーターのスキルを学び、チーム医療を促進するためのカンファレンスの場面を通してファシリテーターのあり方をディスカッションする。

事後課題：

- 1) テーマ「職場のカンファレンス実践での自己の気づき」についてレポート作成し、上司より評価を受ける。
- 2) 所定用紙（資料2）に記載し、研修1か月後に提出する。

## 組織の問題解決

### 「生き生き組織づくり」

時間： 1月26日（木） 9：00～11：00

目的：

- 1) 現場の問題点に気づき、業務改善・改革する力を身につける。

目標：

- 1) リーダーシップの重要性と問題解決技法について理解できる。
- 2) 組織の活性化、問題解決へつながる行動が実践できる。

内容：

- 1) 所属するセクションの現状を分析し、取り組むべき課題を抽出する。問題解決のためのチームメンバーへのアプローチ、自己改革の方法などに具体的な解決方法を学ぶ。

事後課題：

- 1) テーマ「研修後に、現場の問題をとらえ取り組んでいること」についてレポート作成し、上司より評価を受ける。
- 2) 所定用紙（資料2）に記載し、研修3か月後に提出する。

## チーム STEEPS

### チーム力で安全管理力を UP

時間： 8月30日（火） 9：00～11：00

目的：

- 1) チームのパフォーマンスを向上させ、安全文化における組織風土を改善するための行動を実践する。

目標：

- 1) チーム医療を推進するためのリーダーシップの発揮、メンバーシップ発揮のための支援について理解できる。
- 2) チーム STEEPS におけるフレームワークを学び、チームパフォーマンス向上のための役割を認識できる。

内容：

- 1) チームパフォーマンスを向上させるツールとして「チーム STEEPS」を学習し、概念化を図る。
- 2) 人為的ミスの発生過程などを経験し、チーム STEEPS のプロセスを学ぶ。

事後課題：

- 1) テーマ「ファシリテーターとして行ったカンファレンスについての振り返り」についてレポート作成し、上司より評価を受ける。
- 2) 所定用紙（資料2）に記載し、研修1か月後に提出する。

## Step 5 の到達を目指す教育

### 病院組織における看護管理者の役割

「マネジメントラダーを活用しキャリアビジョンを具体化する」

時間： 5月31日（火） 9:00～11:00

目的：

- 1) 病院組織を理解し、看護管理者としての役割を見出せる。

目標：

- 1) 病院組織における看護管理者の役割を理解できる。
- 2) マネジメントラダーの活用を理解し、自己の行動目標を明確にする。

内容：

- 1) 地域における病院の位置づけと役割
- 2) 病院組織における看護管理者の位置づけ
- 3) 看護管理に必要な数字の見方と使い方

事前課題：

- 1) マネジメントラダーSTEP 1 の自己評価を作成する。

事後課題：

- 1) テーマ「自己の行動目標を立案・実践・評価結果について」
- 2) 所定用紙（資料1）に記載し、研修6か月後に提出する。

### 看護管理者のコンピテンシーモデル

「看護管理に活かそうコンピテンシー」

時間： 6月24日（金） 9:00～11:00

目的：

- 1) コンピテンシーモデルについて理解する。

目標：

- 1) 自己のコンピテンシーレベルを理解し、看護管理力の開発につなげることができる。
- 2) チーム医療を推進するためのリーダーシップの発揮、メンバーシップ発揮のための支援について理解できる。

内容：

- 1) コンピテンシーとは
- 2) 看護管理におけるコンピテンシーの活用
- 3) コンピテンシーモデルとは
- 4) コンピテンシーの評価

事前課題：

- 1) 看護部コンピテンシーの自己評価を作成する。

事後課題：

- 1) 6ヶ月の間に取り組んだ看護管理について、コンピテンシーを用いて内省する。
- 2) 所定用紙（別途指示）に記載し、研修6か月後に提出する。

平成28年度 プラクティカルコース

【STEP1の到達を目指す教育】新人看護職員研修

4月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
感染防護用具・鋭利器材の取り扱い	1. 感染防護用具や鋭利器材の取り扱いを通して、患者および自身を感染から身を守るため意識を高める。	1. 予防策として使用する防護予防具の正しい取り扱いを学び、自らが媒介とならず、患者の安全を守る行動ができる。 2. 患者および自己を守る技術として行動できる。	ICT 梶川智弘看護長	4月6日（水） 15:30～16:00 154名	感染予防の大切さと実際に感染防護用具を用いて正しい取り扱い方法を学んだ。自己が媒介にならないという事と自己を感染から守るという概念について理解することができた。
社会人としての心得	1. 新人看護職員としての主体的行動と社会人としての行動を理解し、実践に活かす。	1. 職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力について学び、困難を乗り越える対処方法を身に付ける。	高井亜希看護教育科長	4月6日（水） 11:15～12:00 154名	社会人と学生の違いについて考え、働く上で求められる能力は何かを考えることができた。
BLS	1. 急変に対応する能力を養い、必要な状況に面した際に迅速かつ的確に実践する。	1. 蘇生を始める必要性および状況を判断し、実践できる。 2. 対応すべき場面における自己の役割を判断し、適切な手技で実施できる。	BLSインストラクター 角矢智恵看護主任 加藤滋代看護主任 前川加奈子看護主任 鈴木雅子看護主任 竹山朋子看護主任 大川千春看護主任 堀田真理看護主任 前田和志看護主任 酒井敏江看護主任 岡田佐知子看護主任 大崎美佐子看護主任 谷川阿紀看護主任 前田孝二郎看護副主任 清水浩看護副主任 高橋美津子看護副主任 片山愛看護副主任 藤田千恵美看護副主任 柴田みゆき看護副主任 山田敏路看護副主任 森志津子看護副主任 鈴木紀代美看護副主任 白濱しのぶ看護副主任 白濱佐知子看護副主任 水谷洋看護副主任 安井恵美看護副主任 山邊洋子看護副主任 渡邊真智子看護副主任 星山美保看護副主任	4月25日（月） 9:00～12:15 31名 13:00～16:15 31名 4月27日（水） 9:00～12:15 31名 9:00～12:15 30名 4月28日（木） 9:00～12:15 31名 13:00～16:15 31名	演習を通して、一次救命処置に必要な知識及び技術を修得することができた。

## 5月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
静脈注射レベル3規定の理解・ハイリスク薬剤の種類と基礎知識	1. 当院の静脈注射レベル、ハイリスク薬剤の基礎知識について学び、業務範疇に則して実践する。	1. 当院の静脈注射レベル規定について理解できる。 2. 静脈注射を正しく理解できる。 3. ハイリスク薬剤の種類と基礎知識について理解できる。 4. 抗がん剤の職業曝露の危険性と防護対策について理解できる。	神納美保看護副主任	5月18日（水） 8:30～9:30 37名 9:45～10:45 37名 13:00～14:00 38名 14:15～15:15 40名	看護師が静脈注射を行うようになった経緯について学習し、当院における静脈注射実施基準について理解することができた。また、ハイリスク薬剤の基礎知識や抗がん剤の取り扱い時の注意事項についても学習することができた。
アセスメントスキル（急変の兆候）	1. 患者急変時に実践すべき行動を考え、日々急変のリスクを抱えた患者の看護を不安なく実践する。	1. 急変に繋がる主要徴候を理解し、事例から観察ポイントや看護ケアを導き出すことができる。	河合佑亮看護師 林 和弥看護師	5月12日（木） 8:30～10:00 16名 10:15～11:45 19名 13:00～14:30 18名 14:45～16:15 19名 5月26日（木） 8:30～10:00 20名 10:15～11:45 19名 13:00～14:30 18名 14:45～16:15 20名	急変の徴候について、経験が少ない新人でも観察することができる基本的知識について理解することができた。検温時のセズメントに活かせる内容であった。
看護必要度	1. 看護サービスのより適切な評価を通して、重症度・看護必要度に関わる評価方法を修得する。	1. 看護必要度の概念を理解し、評価の実際について理解できる。 2. 適切な看護必要度評価のために、正しく看護記録を入力することができる。	看護必要度連絡会担当看護師	5月18日（木） 8:30～9:30 37名 9:45～10:45 37名 13:00～14:00 40名 14:15～15:15 38名	平成28年度の看護必要度の概念と評価方法について理解した。また、必要度を正しく判断するためのテストを実施し、理解度の確認を行った。合格者は看護必要度評価者として認定した。合格者：148名（新人）、4名（既卒）

## 6月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
シミュレーショントレーニング I	1. 与薬・療養上の世話において正しい患者確認（6R）を正しく理解し、常に安全に努める行動を実践する。	1. 様々な場面における6Rの必要性を理解し、必要な資源を用いて患者確認ができる。 2. ダブルチェックを含めた正しい確認方法を通して、安全意識を高めることができる。	片方容子看護長 教育担当者	6月2日（木） 8:30～10:00 38名 10:15～11:45 32名 13:00～14:30 39名 14:45～16:15 37名	療養上の世話・内服・注射・処置などの場面を設定し、必要な資源（PDA、リストバンド、処方箋など）を用いてシミュレーショントレーニングを実施し、注意点を理解することができた。

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
麻薬管理と実際	1. 医療用麻薬の管理・効果と使用について理解し、安全な麻薬の使用を実践する。	1. 麻薬の基礎知識、麻薬の取り扱いの実際について理解できる。 2. 疼痛緩和における麻薬の使用について理解できる。	小倉和也看護師	6月13日(月) 9:00~10:00 19名 10:15~11:15 18名 13:30~14:30 21名 14:45~15:45 18名 6月23日(木) 9:00~10:00 22名 10:15~11:15 18名 13:30~14:30 17名 14:45~15:45 16名	麻薬の管理、および当院で採用されている麻薬や、麻薬の取り扱いについて、正しく麻薬を管理する方法を学習した。麻薬を使用する患者が増えており、確実な観察や管理を実践するための知識を得ることができた。
ハートリフレクションⅠ	1. 入職1年後に目指す自己の看護を明確にし、到達に向けての過程を確認しながら看護観を深める。 2. 職場適応を促進するための人間関係を構築し、自分を支える周囲への関心を深め、組織人としての責任と自覚について明確にする。 3. 病院組織における看護職の責務を自覚し、果たすべき役割を実践する。	1. 同僚と学びを共有することで自己の立場を認識し、看護師としてのモチベーションを保ち続けことができる 2. 組織の一員としての行動について考えることができる。 3. 組織の一員としての自覚を持ち、職務を果たす意味を理解できる。 4. 看護職としてのキャリアパスを描き、自己実現のための責任について理解できる。	片方容子看護長 蓑島光里看護長 三鬼達人看護長 鈴木朝子看護長 佐野友香看護師	6月13日(月) 8:30~10:00 18名 10:15~11:45 19名 13:00~14:30 18名 14:45~16:15 21名 6月23日(木) 8:30~10:00 18名 10:15~11:45 22名 13:00~14:30 16名 14:45~16:15 17名	ポートフォリオを用いて、組織に属する一員として、看護師としてのビジョンを描きそのための計画を立案することができた。入職2ヶ月経過し実際の看護業務を通して、24時間患者の安全を守るための決意や組織人としての自覚について振り返り、考える機会となった。

#### 7月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
看護倫理Ⅰ 基礎編①	1. 看護者の倫理綱領に沿って、社会人・専門職として自覚ある看護実践を行う。	1. 倫理綱領を振り返り、看護実践における倫理を考えることができる。 2. 社会人として自覚ある行動を実践できる。	高井亜希看護教育科長	7月5日(火) 8:30~10:00 40名 10:15~11:45 39名 7月21日(木) 8:30~10:00 25名 10:15~11:45 43名	基礎教育で学習した看護者の倫理綱領を復習し、組織人としての行動のあり方を認識する機会となった。
スキルトレーニングⅡ	1. 感染予防、誤嚥性肺炎予防に対する口腔ケアの必要性を理解し、必要とする患者に看護実践できる。	1. 口腔ケアの必要性を理解することができ、患者に必要性を説明することができる。 2. 口腔内のアセスメントを実施することができる。 3. 口腔ケアの実践を行うことができる。	三鬼達人看護長 渥美雅子看護師	7月14日(木) 9:00~10:00 30名 10:15~11:15 29名 13:00~14:00 29名 14:15~15:15 30名 15:30~16:30 31名	口腔ケアの必要性を理解し、使用物品を用いて患者の状態に応じた口腔ケアの実践を修得することができた。

## 8月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
シミュレーションコントロールⅡ	1. 観察の視点（患者の状態や環境など）を明確にし、患者の安全に留意した看護を実践する。	1. 得られた情報から必要に応じて業務計画や行動計画を修正し、安全な療養環境を提供することができる。 2. 夜勤（中勤）帯における看護の特徴を理解し、メンバーとしての役割を發揮できる。	片方容子教育専任看護長 蓑島光里看護長 三鬼達人看護長 鈴木朝子看護長 片岡優実看護長 佐野友香看護師	8月16日（火） 8:30～10:00 14名 10:15～11:45 14名 13:00～14:30 14名 14:15～16:15 14名 8月17日（水） 8:30～10:00 13名 10:15～11:45 14名 13:00～14:30 13名 14:15～16:15 13名 8月26日（金） 8:30～10:00 13名 10:15～11:45 13名 13:00～14:30 14名	夜勤の状況をもとに、設定された患者の状況および業務内容に対する多重課題を解決するために、優先順位および判断内容について振り返ることができた。また、夜間の少人数における看護体制に必要な報告・連絡・相談について学習する機会となった。

## 9月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
コミュニケーションから見た安全管理（SBAR）	1. 医療チーム全体が様々な状況に対する共通認識を持つための、コミュニケーションスキルを修得する。	1. 正確な情報伝達の手法を修得し、アセスメントや状況などのチームへの報告に用いることができる。	木下輝美看護長	9月1日（木） 9:00～11:00 49名 13:00～15:00 49名 9月15日（木） 9:00～11:00 48名	事例にそってSBARの手順を学習し、グループディスカッションを通して報告内容を整理して考えることができ実践に活かせる内容であった。次年度は、もう少し早い時期に開催し、現場での実践に活かせるようにする。
輸血における観察と管理	1. 安全な輸血療法実施するための知識を得、適切な患者の観察・対応を行う。	1. 適切な輸血の払い出し手順が理解できる。 2. 輸血療法を実施する患者の看護が理解できる。 3. 輸血療法による副作用の早期発見が理解できる。	橋本さや香看護副主任	9月1日（木） 11:00～12:00 49名 14:00～16:00 49名 9月15日（木） 11:00～12:00 48名	輸血の種類や内容について学習し、輸血を行う患者の看護、安全な実施のための患者確認や実施手順、症状について学習した。適正な実施のために、静脈注射レベル1・2の安全な実施について理解することができた。
ハートリフレクションⅡ	1. 入職1年後に目指す自己の看護を明確にし、到達に向けての過程を確認しながら看護観を深める。 2. 職場適応を促進するための人間関係を構築し、自分を支える周囲への関心を深め、組織人としての責任と自覚について明確にする。 3. 病院組織における看護職の責務を自覚し、果たすべき役割を実践する。	1. 同僚と学びを共有することで自己の立場を認識し、看護師としてのモチベーションを保ち続けることができる。 2. 組織の一員としての行動について考えることができる。 3. 組織の一員としての自覚を持ち、職務を果たす意味を理解できる。	片方容子教育専任看護長 蓑島光里看護長 三鬼達人看護長 鈴木朝子看護長 佐野友香看護師	9月8日（木） 8:30～10:00 18名 10:15～11:45 19名 13:00～14:30 18名 14:45～16:15 21名 9月23日（金） 8:30～10:00 18名 10:15～11:45 22名 13:00～14:30 16名 14:45～16:15 17名	9月になると、各自責任も重くなり患者のケアや処置につくことも増える時期になる。インシデントも経験した新人も増え始め、一人で落ち込むだけでなく、みんなで情報共有し、そのインシデントからの学びについて話し合う良い機会となった。また、藤田学園の職員であるという認識を再確認する機会となった。

## 10月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
急変時の対応	1. 急変患者発生時の初期対応について、修得した知識・技術を活用した看護過程を実践する。	1. フィジカルアセスメントを用いた状態評価を行うことができる。 2. 医療チームに、異常についてSBARを用いて報告を行い、応援要請ができる。 3. 事例を用いて、急変患者への適切な対応を実践できる。	河合佑亮看護師 神戸美樹看護師	10月6日(木) 9:00~11:30 36名 13:00~15:30 39名 10月27日(木) 9:00~11:30 40名 13:00~15:30 34名	急変患者の事例に基づいてロールプレイを行い、フィジカルアセスメントを用いて評価を行い、SBARを用いた効果的な報告方法についても学ぶことができた。実践に活かせる内容であった。

## 11月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
看護倫理 I 基礎編②	1. 看護者の倫理綱領に沿って、社会人・専門職として自覚ある看護実践を行う。	1. 倫理的問題を含む事例を通し、事故の当事者にならないための責任ある行動を明確にできる。 2. 基準・規定に沿った確実な実践の意味を理解し、安全な看護実践を行うことができる。	藤田千鶴看護副部長	11月10日(木) 9:00~11:30 39名 13:00~15:30 40名 11月24日(木) 9:00~11:00 40名 13:00~15:30 30名	過去の事例から、看護倫理綱領を手掛かりに問題を明確し、看護者としての行動のあり方を考える機会となった。

## 2月実施分

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
看護倫理 I 実践編	1. 看護者の倫理綱領に沿って、社会人・専門職として自覚ある看護実践を行う。	1. 倫理的問題をほらむ事例について経験をとって振り返ることができる。 2. 看護者として実践すべき行動を明らかにすることができる。	藤田千鶴看護副部長	2月9日(木) 9:30~11:00 37名 14:00~15:30 39名 2月23日(木) 9:30~11:00 40名 14:00~15:30 33名	倫理的問題をほらむ事例について経験をとり振り返り、看護者として実践すべき行動を明らかにする機会となった。
ハートリフレクションⅢ	1. 入職1年後に目指す自己の看護を明確にし、到達に向けての過程を確認しながら看護観を深める。 2. 職場適応を促進するための人間関係を構築し、自分を支える周囲への関心を深め、組織人としての責任と自覚について明確にする。 3. 病院組織における看護職の責務を自覚し、果たすべき役割を実践する。	1. ポートフォリオを用いて取り組みを言語化できる 2. 同僚と学びを共有することで自己の立場を認識し、看護師としてのモチベーションを保ち続けことができる 3. 組織の一員としての行動について考えることができる。	片方容子教育専任看護長 蓑島光里看護長 三鬼達人看護長 鈴木朝子看護長 佐野友香看護師	2月9日(木) 8:30~9:30 18名 11:00~12:00 19名 13:00~14:00 18名 15:30~16:30 21名 2月23日(木) 8:30~9:30 18名 11:00~12:00 22名 13:00~14:00 16名 15:30~16:30 17名	グループワークによって、自分を支える周囲への関心を深め、組織人としての責任と自覚について明確にし、病院組織における看護職の責務を自覚し、果たすべき役割を認識する機会となった。

平成28年度 プラクティカルコース

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
<b>【Step2の到達を目指す教育】</b>					
自分を知る 「自分を磨き高める 『気づき』」	1. 自分の思考や行動そのものを自ら客観的に捉え、患者や職場のスタッフ等との関わり合いを大切にす る表現を行う。	1. 自分の看護について客観的に自 らが認識し、見直すことができ る。 2. 安全管理の視点で、自分にとっ てあるべき看護について自らが 認識し実践することができる。	木下輝美看護長	6月9日（木） 9:00～11:00 参加者:22名 1月31日（火） 9:00～11:00 参加者:24名	受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:11名 ②まずまずあっていた:11名 客観的に自己を見つめなおし、次 につなげるための改善策を考える きっかけになったと考える。自己の 内省と他者へのかかわり方を学ぶこ とができた。
急変時対応力アップⅠ 「発見から二次救命処 置まで」	1. 患者の変化する状態 (急変)の前駆症状を 効果的に発見し、急 変に至る前段階で早 期対応できる知識・ 技術を修得する。	1. 患者の変化する状況(急変)の 前駆症状を効果的に発見できる 観察方法を学ぶ。 2. 患者の状態変化を言語化し、 SBARにそって応援要請・報告が できる。 3. 割り当てられたメンバーの役割 を実施することができる。 4. 救急処置を行う際に、効果的な チームコミュニケーションをと ることができる。	谷川阿紀看護主任 松本沙己看護師	10月4日（火） 9:00～11:00 参加者:22名 13:00～15:00 参加者:24名 2月2日（木） 9:00～11:00 参加者:18名	受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:37名 ②まずまずあっていた:9名 急変時の対応ができるようになり たいと思い参加した者が多く、実際 に人形を使って急変の徴候を発見し ながら、どのような行動をとるべき か学ぶことができる研修であった。
患者の立場に立つ看護 「看護の視点から、看 護を考えよう」	1. 患者の立場に立った 看護とは何かが分か り、今後の看護に活 かす。 2. 患者体験を通して患 者の気持ちに沿った 看護を実践する。	1. 事例を通して自身の看護が患者 の立場に立っているかを振り返 ることができる。	矢野佳子看護主任	12月8日（木） 9:00～11:00 参加者:28名 13:00～15:00 参加者:28名	どうしたら患者の立場にたった看 護ができるか知りたい、自分の看護 を見直すきっかけが欲しいなどの受 講動機により参加していた。時間も 内容もとても充実していて、直ぐに 実践に活かせる内容だったや、ロー ルプレイが印象的で深い学習ができ た等の意見が聞かれ、実践に活かせる 内容であったと考える。

<p>看護研究 基本コースⅠ 「文献クリティーク」</p>	<p>2) 患者体験を通して患者の気持ちに沿った看護を実践する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな研究方法で書かれた論文を読んでいくという作業を通して、研究デザインや理論・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について理解を深めることができる。</li> <li>2. 研究課題の選択や吟味の方法を理解することができる。</li> <li>3. 自分の関心のある（問題意識などを持つ）事項の研究の文献を読み最新の知見の概要を知ることができる。</li> </ol>	<p>医療科学部 盛田麻己子准教授 片岡優実看護長</p>	<p>7月 7日（木） 9:00～11:00 参加者:20名 8月29日（月） 9:00～11:00 参加者:20名</p>	<p>先行研究を使用し、研究結果の妥当性を検討し、よい研究、よい論文の見分け方を学ぶことができた。また、今後の自分たちの取り組むべきテーマや課題の見つけ方、研究方法の基礎を学ぶ機会となった。</p>
<p>看護研究 基本コースⅡ 「文献検索方法」</p>	<p>1. 課題を解決するために、文献や資料を検索でき、その要点を整理する能力を身につける。</p>	<p>1. 看護学会における主要科学論文誌を認識し、文献検索ツール等を使いこなし、課題に関連する有益情報を適切に抽出、整理できる。</p>	<p>片岡優実看護長 図書館中島志保司書</p>	<p>11月17日（木） 9:00～10:30 参加者:20名 2月16日（木） 9:00～10:30 参加者:12名 □</p>	<p>実際にパソコンを用いて、文献検索（医中誌webを中心に）とデータベースの基礎知識を学ぶことができ、分かりやすい講義であった。また、文献の入手と図書室利用方法について学び、実際の活用に活かせる内容であった。</p>
<p>【Step3の到達を目指す教育】</p>					
<p>急変時対応力アップⅡ 「急変を最短で見抜く」</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急変に結びつく危険な徴候を理解し、適切な対応を修得する。</li> <li>2. 急変場面でのリーダーシップを養う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急変時の身体の変化を理解し、初期評価、一次評価、二次評価が実施できる。</li> <li>2. 急変時に適切な対応を実践することができる。</li> <li>3. 急変時の家族への対応を考えることができる。</li> <li>4. 急変時におけるリーダー看護師の役割を考えることができる。</li> </ol>	<p>谷川阿紀看護主任 松本沙己看護師</p>	<p>9月7日（水） 9:00～ 11:00 参加者:27名 13:00～15:00 参加者:26名</p>	<p>受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:32名 ②まずまずあっていた:19名 ③あまりあっていない:2名 急変時の事例をもとにシミュレーションを行ったり、実践した場面を振り返り、急変時の適切な対応の在り方を検討したりした。急変場面でのリーダーの具体的な役割についてディスカッションすることで、リーダーシップの再確認ができてよかった。</p>

働きやすい職場づくり 「教え、育てる職場づくり」	1. 職場における、教育的環境について考え実習生・後輩を育成できる病棟作りができる。	1. 自分の病棟の現在の環境について客観的視点で評価することができる。 2. 自分の教育についての考えを明確にできる。 3. 病棟における自分の役割を考慮することができる。 4. 専門職として教育的環境を整える方法が分かる。	浦崎優子看護長	8月 25日 (木) 9:00~11:00 参加者:15名 12月15日 (木) 9:00~11:00 参加者:29名	受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:12名 ②まずまずあった:3名 後輩の指導方法について悩んでいるスタッフが多いが、成功体験(自己効力感)を用いた方法を知り悩みを解決の糸口を見出す研修であったと考える。
キャリアプランを考える 「自分の道しるべは何か」	1. より良い結論を求めるための議論を行う上で必要となる知的能力や意思決定能力を養う。 2. 今後の看護師としての方向性について考える機会となる。	1. 物事を分析する能力、状況にあわせて判断する能力、自分の主張を論理的に構成する能力を養うことができる。 2. 自分のキャリアプランの道しるべを考え、発見することができる。	辻井しず看護長	9月29日 (木) 9:00~11:00 参加者:16名 12月1日 (木) 9:00~11:00 参加者:18名	受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:15名 ②まずまずあった:1名 看護管理者、専門・認定看護師、ジェネラリストナースの役割について説明し、各自のキャリアプランを考えることができた。また、グループワークを通して、自己開示する機会となった。
エンド・オブ・ステージにおけるケア 「死と向き合う患者の思いを支える看護」	1. 終末期ケアを通して患者の尊厳を理解し、エンド・オブ・ステージにおける効果的な看護ケアを養う。	1. 終末期にある患者と家族の心に響く、関わりが理解できる。 2. 看護師自身の感情の保ち方を通し、コミュニケーションの取り方が理解できる。 3. 臨床現場における倫理的な感受性を育む行動が実践できる。	吉村元輝看護副主任	10月13日 (木) 9:00~11:00 参加者:41名	受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:26名 ②まずまずあった:15名 終末期の患者の看護に苦手意識がある看護師が多いが、事例を通してターミナル期の患者への関わり方やデスカンファレンスの進め方などが理解できる講義であった。
<b>【Step4の到達を目指す教育】</b>					
静脈注射レベル3フォローアップ	1. 最新の医学および薬剤知識、薬剤投与における看護について学び、根拠に基づいた静脈注射を実施する。	1. 薬剤に関連する最新知識を得、安全に実施できる。 2. レベル3認定に対する責任を自覚し、薬剤投与に関する看護実践ができる。	秋吉麻紀看護主任	6月30日 (木) 9:00~11:30 参加者:17名	受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:8名 ②まずまずあった:9名 化学療法や麻薬の種類も多種多様になってきており、今後も定期的に薬剤の取扱いの知識や技術の再確認ができるような研修の企画が必要である。また、研修内容が期待しているものと異なったという意見も少数あったため、次年度は現場が求める内容を取り入れていきたい。

<p>指導スキル 「カンファレンスを上手に進めよう」</p>	<p>1. 指導におけるファシリテーターの役割・条件・技術を修得し、職場での多職種カンファレンスで実践する。</p>	<p>1. 相手から多様な意見を引き出す指導が実践できる。 2. メンバーの相互理解や協働を促し、成果につながる指導ができる。</p>	<p>蓑島光里看護長</p>	<p>7月28日(木) 9:00～11:00 参加者:13名</p>	<p>受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:6名 ②まずまずあった:7名 カンファレンスの運営がうまくできず、沈黙になる事が多いため、司会の仕方について学びたいと思い参加したスタッフが多く、事例を使い模擬カンファレンスを行うことで、それぞれの役割がイメージしやすかったと考える。また、他の病棟スタッフと意見交換するいい機会になったと考える。</p>
<p>組織の問題解決 「生き生き組織づくり」</p>	<p>1. 現場の問題点に気づき、業務改善・改革する力を身につける。</p>	<p>1. リーダーシップの重要性と問題解決技法について理解できる。 2. 組織の活性化、問題解決へつながる行動が実践できる。</p>	<p>小野寅雄臨床看護科長</p>	<p>1月26日(木) 9:00～11:00 参加者:30名</p>	<p>看護副主任クラスのスタッフが参加し、研修後、各自が所属するセクションの現状を分析し、取り組むべき課題を抽出する取り組みを行った。問題解決のためのチームメンバーへのアプローチ、自己改革の方法などに具体的な解決方法を学ぶきっかけとなった。</p>
<p>チームSTEPPS 「チーム力で安全管理力をUP」</p>	<p>1. チームのパフォーマンスを向上させ、安全文化における組織風土を改善するための行動を実践する。</p>	<p>1. チーム医療を推進するためのリーダーシップの発揮、メンバーシップ発揮のための支援について理解できる。 2. チームSTEPPSにおけるフレームワークを学び、チームパフォーマンス向上のための役割を認識できる。</p>	<p>濱口紀子看護長</p>	<p>8月30日(火) 9:00～11:00 参加者:12名</p>	<p>受講動機・目標に合っていたか ①合っていた:9名 ②まずまずあった:3名 実際にグループワークを通じて、1つのタスクを皆で達成できるようには、どのように行動したらよいか、また次のステップ達成のためには何が必要かをフィードバックし、よりよいチーム医療について考えることができたと考える。無意識に行っていたことが、チームにいい影響を与えていることもあれば、チームに不安を与えることもあるということを知り、各現場での行動・言動について改めて見直す良い機会となったと考える。</p>

【Step5の到達を目指す教育】					
病院組織における看護管理者の役割 「マネジメントラダーを活用しキャリアビジョンを具体化する」	1. 病院組織を理解し、看護管理者としての役割を見出せる。	1. 病院組織における看護管理者の役割を理解できる。 2. マネジメントラダーの活用を理解し、自己の行動目標を明確にする。	高井亜希看護教育科長	5月31日（火） 9:00～11:00 参加者：21名	地域における病院の位置づけと役割を知るとともに、病院組織における看護管理者の位置づけについて学んだ。また、看護管理者が経営に参画する意義を知り、マネジメントを行っていく必要性について学ぶ機会となった。
看護管理者のコンピテンシーモデル 「看護管理に活かそうコンピテンシー」	1. コンピテンシーモデルについて理解する。	1. 自己のコンピテンシーレベルを理解し、看護管理力の開発につなげることができる。 2. チーム医療を推進するためのリーダーシップの発揮、メンバーシップ発揮のための支援について理解できる。	尾上ひとみ看護長	6月24日（金） 9:00～11:00 参加者：16名	コンピテンシーの共通理解を行い、看護管理におけるコンピテンシーの活用によって能力開発につながることを学んだ。実際に、事例を用いてコンピテンシーの評価を行い、今後の評価に向けて学習を行った。

## 2) マスターコース

ある特定の分野において、より専門的に学び実践能力段階に適した能力開発を行う。このコースはジェネラリストとして成長する看護師の育成を目的とする。

### **認知症看護**

STEP2：認知症ケアで役立つ基礎知識 ～一般的な高齢者の看護～

#### **「認知症の人のもてる力を活かしたケアの実践」**

日時： 6月 6日（月）

目的：認知症患者のもてる力を活かす認知症ケアが理解できる

目標：老年期における認知症ケアの基礎知識を活かし現場で実践できる

内容：1) 認知症患者とのかかわりケア

2) 老年期における認知症の経過と一般的な看護ケア

3) 認知症の人のもてる力を活かす

STEP3：手術、術後せん妄のケア ～急性期の高齢者の看護～

#### **「手術、術後せん妄のケアのポイントを学ぼう」**

日時： 8月 29日（月）

目的：手術、術後せん妄のメカニズムを理解し看護ケアに活かす

目標：手術、術後せん妄の状態を理解し、看護ケアが実践できる

内容：1) 手術、術後せん妄の発症時期と特徴

2) 手術、術後せん妄の看護ケア

## スキンケア

### STEP2：褥瘡ケア

#### 「DESIGN-R 評価によるアセスメントと適切な対応」

日時：7月4日（月）

目的：褥瘡のトータルケアが実践できる知識を身に付ける

目標：褥瘡のアセスメント力を高め適切な対応ができる

内容：1) DESIGN-R 評価と対処方法について

2) 体圧分散と正しいポジショニング

3) 費用を考慮した適切な物品選択について

### STEP3：スキン-ケアの予防と管理

#### 「高齢者の脆弱な皮膚を守るためのケア」

日時：10月17日（月）

目的：スキン-ケアの概念を学び正しいスキンケアの知識が理解できる

目標：摩擦やズレで引き起こされる脆弱な皮膚を守る方法を学び適切なケアが実践できる

内容：1) 高齢者の皮膚の特徴と危険因子

2) スキン-ケアのアセスメント方法

3) スキン-ケアの予防法

\*スキン-ケアとは、動作や介護による摩擦やズレによる皮膚裂傷のことを表します

## 糖尿病看護

STEP2：糖尿病治療の薬の知識とその注意点

### 「 血糖コントロール薬を安全に適切に」

日時： 8月 4日（木）

目的：血糖コントロールに使われる薬について理解し、安全に取り扱う方法を理解する

目標：血糖降下剤およびインスリン注射を安全に適切に行うことができる

内容：1) 血糖コントロールに使用する注射薬（インスリン、インスリン以外（GLP-1 等）

および内服薬の特徴

2) スライディングスケールを使用した血糖コントロールの注意点

3) 安全なインスリン投与方法、低血糖および高血糖に関する注意点

STEP3：インスリン自己注射指導と自己血糖測定 of 患者指導

### 「 糖尿病患者の療養生活指導 」

日時：11月 1日（火）

目的：インスリン自己注射と自己血糖測定を通じた糖尿病患者指導

目標：糖尿病患者のインスリン自己注射・自己血糖測定を通じた生活指導ができる

内容：1) インスリン自己注射指導のポイント

2) 自己血糖測定指導のポイント

3) 自己注射および自己血糖測定を通じた糖尿病患者の療養生活指導

## 退院支援

STEP3：病棟でできる情報収集・アセスメントと在宅療養に向けての計画立案

### 「退院支援・退院調整は早めの介入から」

日時：9月20日（火）

目的：入院時から退院を見据えた支援について理解する

目標：退院支援の必要性が理解でき、在院日数を短縮につなげることができる

内容：1) 入退院センターとの連携による退院支援、退院調整

2) 患者と家族の意向に沿った退院支援

3) 退院支援の情報収集・アセスメント・計画立案について

STEP4：多職種との協働による退院調整

### 「多職種の強みを活かした退院支援」

日時：12月20日（火）

目的：多職種との協働による退院調整について理解する

目標：院内、院外の多職種の役割を知り退院調整に活かすことができる

内容：1) 退院調整に関わる多職種（訪問看護師、MSW、ケアマネジャーなど）の役割について

2) 退院支援における多職種との協働のポイント

3) 多職種との協働・連携の方法について（事例を通して）

## 看護管理

STEP4：スタッフのやる気を引き出すコーチング

### 「状況対応リーダーシップモデルを用いたコーチング」

日時：10月11日（火） 17：00～18：00

目的：スタッフのモチベーションを高める方法を学ぶ

目標：レディネスレベルに応じたコーチングを人材育成に活かすことができる

- 内容：1) 状況対応リーダーシップとは
- 2) コーチングについて
  - 3) レディネスに応じたコーチング

STEP5：経営的視点を踏まえた看護管理

### 「看護管理に必要な経営的視点」

日時：2月14日（火） 17：00～18：00

目的：経営的視点を踏まえた看護管理が理解できる

目標：看護管理者として経営的視点を踏まえ日々の看護管理に活かすことができる

- 内容：1) 看護管理に経営的視点が必要な理由
- 2) 経営資源の4つの視点（ヒト、モノ、カネ、情報）について
  - 3) 社会の動向（超高齢社会、少子化、多死社会）と医療界の変化を知る

平成28年度 マスターコース

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
<b>【STEP2の到達を目指す教育】</b>					
認知症ケアで役立つ基礎知識 ～一般的な高齢者の看護～ 「認知症の人のもてる力を活かしたケアの実践」	1. 認知症患者のもてる力を活かす認知症ケアが理解できる	1. 老年期における認知症ケアの基礎知識を活かし現場で実践できる	加藤滋代看護主任	6月6日（月） 17:00～18:00 参加者:25名	研修内容の満足度 ①とても満足：24名 ②まあまあ満足：1名 老年期における認知症の経過と一般的な看護ケアについて学び、認知症の人のもてる力を活かす実践方法を学ぶことができた。
褥瘡ケア 「DESIGN-R評価によるアセスメントと適切な対応」	1. 褥瘡のトータルケアが実践できる知識を身に付ける	1. 褥瘡のアセスメント力を高め適切な対応ができる	山村真巳看護長	7月4日（月） 17:00～18:00 参加者:48名	研修内容の満足度 ①とても満足：39名 ②まあまあ満足：9名 実際に褥瘡を観察しながらDESIGN-Rを評価することができたため、評価の仕方やポイントを学ぶことができたと考える。また、実践に活かせる内容であった。
糖尿病治療の薬の知識とその注意点 「血糖コントロール薬を安全に適切に」	1. 血糖コントロールに使われる薬について理解し、安全に取り扱う方法を理解する	1. 血糖降下剤およびインスリン注射を安全に適切に行うことができる	吉田久美看護副主任	8月4日（木） 17:00～18:00 参加者:23名	研修内容の満足度 ①とても満足：15名 ②まあまあ満足：8名 糖尿病を既往に持つ患者が多いが、基礎から調べる機会は少ないためよい学習の機会になったと考える。使用している薬剤名を出して講義を行い分かりやすかった。

【STEP 3 の到達を目指す教育】					
手術、術後せん妄のケア～急性期の高齢者の看護～ 「手術、術後せん妄のケアのポイントを学ぼう」	1. 手術、術後せん妄のメカニズムを理解し看護ケアに活かす	1. 手術、術後せん妄の状態を理解し、看護ケアが実践できる	河合佑亮看護師	8月29日（月） 17:00～18:00 参加者:21名	研修内容の満足度 ①とても満足：21名 ②まあまあ満足：0名 手術、術後せん妄の発症時期と特徴を知り、急変の徴候を見逃さないことの大切さを学び、術後せん妄の看護ケアに活かせる内容であった。
スキンケアの予防と管理 「高齢者の脆弱な皮膚を守るためのケア」	1. スキンケアの概念を学び正しいスキンケアの知識が理解できる	1. 摩擦やズレで引き起こされる脆弱な皮膚を守る方法を学び適切なケアが実践できる	大森鮎子看護師	10月17日（月） 17:00～18:00 参加者:22名	研修内容の満足度 ①とても満足：16名 ②まあまあ満足：6名 皮膚裂傷の予防と発生後のケアについて学ぶことができ、日常のケアに活かせる内容であった。
インスリン自己注射指導と自己血糖測定 of 患者指導 「糖尿病患者の療養生活指導」	1. インスリン自己注射と自己血糖測定を通した糖尿病患者指導	1. 糖尿病患者のインスリン自己注射・自己血糖測定を通した生活指導ができる	吉田久美看護副主任	11月1日（火） 17:00～18:00 参加者:4名	研修内容の満足度 ①とても満足：4名 ②まあまあ満足：0名 インスリン自己注射指導のポイントや自己血糖測定指導のポイントについて学び、糖尿病患者の療養生活指導に活かせる内容であった。
病棟でできる情報収集・アセスメントと在宅療養に向けての計画立案 「退院支援・退院調整は早めの介入から」	1. 入院時から退院を見据えた支援について理解する	1. 退院支援の必要性が理解でき、在院日数を短縮につなげることができる	須原由紀看護長	12月6日（火） 17:00～18:00 参加者:30名	入退院センターとの連携による退院支援、退院調整について学んだ。患者と家族の意向に沿った退院支援や情報収集・アセスメント・計画立案について事例をもとに学ぶきっかけとなった。

【STEP4の到達を目指す教育】					
多職種との協働による退院調整 「多職種の強みを活かした退院支援」	1. 多職種との協働による退院調整について理解する	1. 院内、院外の多職種の役割を知り退院調整に活かすことができる	垣内清美看護長	12月20日（火） 17:00～18:00 参加者:15名	退院調整に関わる多職種（訪問看護師、MSW、ケアマネジャーなど）の役割や退院支援における多職種との協働のポイントについて学んだ。意見として、退院支援の重要性を再認識し、早期から介入することの大切さを学んだという意見が多く聞かれた。
スタッフのやる気を引き出すコーチング 「状況対応リーダーシップモデルを用いたコーチング」	1. スタッフのモチベーションを高める方法を学ぶ	1. レディネスレベルに応じたコーチングを人材育成に活かすことができる	医療科学部 米本倉基教授	10月11日（火） 17:00～18:00 参加者:25名	研修内容の満足度 ①とても満足：14名 ②まあまあ満足：8名 ③無回答：3名 コーチングスキルについてまなび、分かりやすかった、勉強になったという意見が多く聞かれた。60分という時間であったため、もっと長く聞きたかったという意見があり、次年度は90分程度で計画したい。
【STEP5の到達を目指す教育】					
経営的視点を踏まえた看護管理 「看護管理に必要な経営的視点」	1. 経営的視点を踏まえた看護管理が理解できる	1. 看護管理者として経営的視点を踏まえ日々の看護管理に活かすことができる	医療科学部 米本倉基教授	2月14日（火） 17:00～18:00 参加者：25名	看護管理に経営的視点が必要な理由や経営資源の4つの視点（ヒト、モノ、カネ、情報）について学んだ。また、社会の動向（超高齢社会、少子化、多死社会）と医療界の変化を知るきっかけとなった。

平成28年度 対象者別教育評価

I. 業務および役割遂行に関する教育

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
静脈注射レベル3教育	1. 静脈注射に関するより高度で専門的な知識・技術を修得し、安全な薬物療法及び看護を実践する。	1. リスクを伴う静脈注射の管理および、末梢静脈留置カテーテルの留置を安全に実施できる。	神納美保看護副主任 安島昭絵看護師 角矢智恵看護主任 野田早智恵看護師 小倉和也看護師 橋本さや香看護副主任	<講義> 6月15日(水) 6月16日(木) 8:30~12:30 参加者:44名 8月22日(月) 8月23日(火) 8:30~12:30 参加者:57名 10月20日(木) 10月21日(金) 8:30~12:30 参加者:40名 12月21日(水) 12月22日(木) 8:30~12:30 参加者:24名 <認定試験> 7月15日(金) 10:00~11:30 参加者43名 9月26日(月) 10:00~11:30 参加者57名 11月28日(月) 10:00~11:30 参加者41名 1月27日(金) 10:00~11:30 参加者24名	7月15日(金) 合格者(70点以上)43名/43名中 平均点 85.5点 最高点 97/100点 最低点 75/100点 9月26日(月) 合格者(70点以上)57名/57名中 平均点 88.2点 最高点 99/100点 最低点 71/100点 11月28日(月) 合格者(70点以上)40名/41名 平均点 87.9点 最高点 97点/100点 最低点 69点/100点 1月27日(金) 合格点(70点以上)20名/24名 平均点 81.7点 最高点 93点/100点 最低点 67点/100点
臨地実習指導者研修	1. 臨地実習指導者に必要な知識と技術を学び、実習指導の充実・向上を図る。	1. 看護基礎教育における実習の意義と臨地実習指導者としての役割を理解できる。 2. 自己の看護観を振り返り、学生のレディネスに合わせた臨地実習指導が実践できる。	医療科学部看護学科 水野暢子教授	8月4日(金) 9:00~12:00 参加者:43名	研修に関する満足度 ①とても満足:36名 ②まあまあ満足:7名 今年度新しく臨地実習指導にあたる指導者としての心構えや学習と指導の違い、それを踏まえた介入方法、ポイントについて学ぶ機会となった。グループワークを通して臨地実習指導者の役割を再認識する機会になったと考える。
教育担当者研修	1. 所属するセクションの特徴を理解し、看護職の能力開発の維持・向上のための教育計画を策定、企画及び運営といった組織的な教育活動を実行・推進する。	1. セクションに属する全ての看護師について、看護管理者と共に能力開発に貢献することができる。 2. 教育目標の達成を目的とし、セクションに応じた教育計画の立案・実施・評価を実施できる。 3. 看護師が研修受講により得た知識・技術を、効果的なOJTとするための支援ができる。	片方容子看護長 三鬼達人看護長	教育連絡会終了後 6月22日(水) 16:00~16:30 参加者:39名 9月28日(水) 16:00~16:30 参加者:39名 11月30日(水) 16:00~16:30 参加者:39名 1月25日(水) 16:00~16:30 参加者:39名	新人看護職員ガイドラインに基づいて、新人看護職員の育成に関する視点で研修を企画した。教育担当者の実地指導者への関わりや新人看護職員への関わりについて学ぶ機会となった。

診療補助研修 (パート含む)	1. 藤田保健衛生大学病院の職員として自覚すると共に、医療チームの一員としての自らの役割を認識する。	1. 医療制度の概要及び病院の機能と組織を理解し、医療チームの一員として行動できる。 2. 守秘義務、個人情報保護について理解できる。 3. 看護補助業務における医療安全と感染防止対策を理解できる。 4. 看護補助業務を遂行するための基礎的な知識・技術を理解できる。	曾我看護副部長 藤田看護副部長 木下輝美看護長 濱口紀子看護長 梶川智弘看護長 酒井看護主任 高木里枝看護主任 小田佳子看護主任 竹山朋子看護主任	5月23日(月) 13:00~16:30 参加者:15名 6月27日(月) 9:00~12:30 参加者:30名 7月29日(金) 13:00~16:30 参加者:40名 8月5日(金) 13:00~16:30 参加者:33名 9月16日(金) 9:00~12:30 参加者:30名 10月31日(月) 13:00~16:30 参加者:19名	研修に関する満足度 7月29日(金) ①とても満足:26名 ②まあまあ満足:14名 8月5日(金) ①とても満足:18名 ②まあまあ満足:13名 ③無回答:1名 9月16日(金) ①とても満足:18名 ②まあまあ満足:11名 ③無回答:1名 10月31日(月) ①とても満足:9名 ②まあまあ満足:10名 患者誤認防止や感染のアウトブレイクを防ぐこと、感染予防の最新知識を学ぶ研修となった。また、接遇や看護技術の演習を行い、実践の場に活かせる研修となった。研修では、実践に活かせる演習の要望が多いため、現場で求められている研修を取り入れていきたい。
MRI検査介助研修	1. ER外来及び自セクションにおけるMRI検査介助が安全に実施できる。	1. MRI検査の原理・特徴を理解できる。 2. MRI検査における禁忌事項・注意事項を理解し、安全なMRI検査実施のための介助ができる。 3. 安全にMRI検査を実施するために自セクションのスタッフに対する教育・支援を行うことができる。	西田洋看護長	5月13日(金) 10:00~11:00 参加者:63名	ER外来では、看護副主任がMRI検査の介助につくため、MRI検査の原理・特徴を理解し、禁忌事項や注意事項を理解した上で、安全に検査介助できることを期待する。また、学んだ知識を自セクションのスタッフに対する教育・支援を行うことを役割として意識する機会となった。
社会人経験のある新人看護職員サポート研修	1. 社会人経験を活かし、異なる環境や年齢層・組織に適応し、看護職を続ける意思を持つ。	1. あらゆる背景を持つ人々とのコミュニケーションを通し、社会化できる。	片方容子教育専任看護長	4月11日(月) 16:00~16:45 参加者:5名 9月1日(木) 15:15~16:00 参加者:5名	入職後と入職5か月後に、現在の心境や困っていること、悩んでいることをディスカッションし、対処方法や自分の強みについて話し合う機会となった。
ER外来(トリアージナーズ)教育	1. 救急医療における自己の役割を認識し、状況に応じた適切な判断のもとチーム医療を提供する。	1. ERに勤務する看護師として、高度なアセスメントスキルを用いてトリアージを行い、適切な医療が提供されるためのマネジメントおよび看護実践ができる。	宮下照美看護長	6月21日(火) 13:00~15:00 参加者:19名	ERにおけるチーム医療と看護やトリアージの考え方、トリアージ算定について学んだ。事例展開を通して、アセスメント能力を高める機会となった。

准看護師研修	1. 社会、医療変化に対応できる新しい知識を学び、外来看護に活かす。	1. 外来における継続看護および地域医療との連携を意識した看護に結びつける。	高木里枝看護主任	10月3日（月） 13:00～14:30 参加者:5名	研修に関する満足度 ①とても満足:5名 最新の社会の動向など学び、地域との連携や高齢化に向けての外来の看護師の役割について改めて考える機会となった。
中途採用者研修	1. 中途採用者が藤田保健衛生大学病院の職員という自覚を持ち、自らの役割を認識する。	1. 病院および看護部組織を理解する。 2. 病院の業務に必要な基礎知識を理解する。 3. 新しい職場環境に適応する。	眞野恵子看護部長 曾我看護副部長 木下輝美看護長 濱口紀子看護長 梶川智弘看護長 酒井看護主任 高木里枝看護主任 小田看護主任	4月28日（木） 9:00～12:30 2名（看護師） 5月27日（金） 9:00～12:00 1名（看護師） 6月30日（木） 9:00～12:30 2名（看護師） 9月1日（木） 9:00～10:00 1名（看護師） 9月21日（水） 10:00～16:00 1名（看護師） 9月26日（月） 9:00～10:00 2名（診療補助） 11月25日（金） 9:00～10:00 1名（看護師） 2月3日（金） 10:00～11:30 1名（看護師）	当院の職員としての責務を果たすため、当院の仕組みなど基本的事項について学習することができた。病院・看護部の方針、看護部に求められる人材、職務基準、現認教育、安全管理、感染管理、個人情報保護と取扱いについて学んだ。
看護研究サポート	1. 看護研究に取り組むうえでの自己の課題を解決し、看護研究を完成する	1. 支援を受けながら、研究計画書の作成・倫理審査会への書類提出・研究発表までのプロセスを実施することができる。	片岡優実看護長 宮下照美看護長	随時	主体的に取り組む看護研究において、個人が抱える問題と共に解決する方法について学んだ。また、研究発表までのプロセスにおいて支援を受けながら取り組むことを知る機会となった。
看護研究「Excelの使用方法和分析:入門」	1. 看護研究時に必要な量的研究におけるExcelの活用方法と分析の基本を学び、自身の看護研究に活用することができる。	1. 看護研究において、量的研究を行うことの意義について学ぶ。 2. 量的データの長所・短所について学ぶ。 3. 量的データのデータ収集（質問紙法）方法、Excelを活用したまとめ方、分析方法（記述統計、推測統計など）についての理解を深める。	佐野友香看護師	5月19日（木） 9:00～11:00 参加者:10名	研修に関する満足度 ①とても満足:10名 研究結果やデータのまとめ方、表の作り方を分かりやすく説明し、パソコンに対する苦手意識があるスタッフでも個々のペースに応じて修得することができた。
看護研究倫理	1. 看護研究における倫理について理解し、倫理審査申請書を作成する	1. 人を対象とする研究に関する倫理が理解できる。 2. 看護研究において必要な倫理的配慮が理解できる。 3. 院内もしくは学園の研究倫理審査申請書を書くことができる。	高井亜希看護教育科長	7月25日（月） 9:00～11:00 参加者:12名	研修に関する満足度 ①とても満足:12名 研究を始めるにあたり、どのように倫理審査を行えばよいか分からなかったが、具体的に学ぶ機会となった。

院内留学研修	1. 他部署で看護の実際を経験することで、自部署の看護の質向上に生かす。今まで経験できなかった看護技術を経験することにより、自身の今後のキャリアアップの一助となる。	1. 経験知の実践を通して確認し、アセスメントが活かされた看護を実践できる。 2. 意識的な実践を通し、自己のアセスメントスキルを評価し、課題を見出すことができる。	各セクション担当者	6月1日（水）～3月24日（金） 参加者：7名	自己の学習課題の到達を目指すために、他セクションで1日勤務を経験し、自己の看護観や看護のスキルを高める機会となった。退院支援に関する関心が高く、地域包括ケア中核センターへの研修が多くみられ、自部署で活用したいという意見が聞かれた。
--------	--	---	-----------	----------------------------	---

## II. ワークライフバランスおよび労務に関する教育

テーマ	目的	目標	講師	開催日・参加者数	評価
産前産後休暇取得対象者研修	1. 出産および育児に関する様々な自己管理、また復職に関連する環境調整に取り組むことでスムーズに職場復帰に対応する。	1. 出産および育児に伴う諸書類の取り扱いについて理解できる。 2. 妊娠中の体調管理のあり方を理解できる。 3. 復職に向けて、ワークライフバランスを意識した取り組みについて理解できる。	眞野恵子看護部長 岡北満喜子看護長 矢野真理看護長	4月18日（月） 13:00～15:00 参加者9名 7月28日（木） 9:00～11:00 参加者13名 12月26日（月） 9:00～11:00 参加者13名	産前産後休暇・育児休暇、看護休暇など妊娠・出産から復職・育児までの様々な手続きについて学ぶ機会となった。また、育児経験のある看護師からのアドバイス、復職までの環境調整や家族間連携などについて、交代勤務におけるワークライフバランスなど学び、生涯看護を仕事とする者としての責任について考えることができた。
復職者研修	1. 育児休暇から復職した職員が病院およびセクションの方針を理解し、現場に速やかに適応する。	1. 当院看護職員の責任と役割を再認識できる。 2. 休職中の決定・周知事項、セクションで発生した事例を振り返り、復職後の看護実践および役割達成に役立てることができる。 3. 組織人としての自覚をもち、自分のワークライフバランスを踏まえ、全看護職員のワークライフバランスの在り方を意識し、行動できる。	眞野恵子看護部長 岡北満喜子看護長 高木里枝看護主任 杉原まり看護主任 大久保奈那子看護副主任	6月6日（月） 9:00～12:30 参加者10名 10月7日（金） 9:00～12:30 参加者22名 2月7日（火） 9:00～12:30 参加者8名	病院や看護部の組織の事業内容や方針を理解し、今後の自分の役割を明確にする機会となった。マニュアルや伝達事項を把握することで、育児休業中に発生した安全・感染・個人情報に関する事例、セクションでの変更改善点や変遷について理解し、復職後の行動実践に活用する機会となった。また、他者の意見を聞きながら、組織人としての権利と責任の持ち方を認識し、自己のワークライフバランスを考えるための機会となった。
復職前研修	1. 育児休暇からの復職に向けて、病院および看護部の方針を理解しこれからの働き方について明確にする。	1. 育児休暇中に変化した病院・看護部の方針を知り、スムーズに復職する準備を整えることができる。 2. 組織人としての自覚をもち、全看護職員のワークライフバランスの在り方を意識した行動について考えることができる。 3. ワークライフバランスを支えるネットワークづくりの機会とすることができる。	眞野恵子看護部長 高井亜希教育看護科長 岡北満喜子看護長 矢野真理看護長	4月28日（木） 10:00～12:00 参加者：9名 8月2日（木） 10:00～12:00 参加者：12名 1月13日（金） 10:00～12:00 参加者：16名	子どもと一緒に参加し、職員同士の交流を図り、復職後に生じる問題や課題についてディスカッションを行った。母親・父親のネットワークづくりを通してこれからの働き方について意見交換を行うことで、復職前の不安軽減につながった。

夜勤専従者研修	1. 夜勤専従における労務の在り方を通して体調管理・生活調整を適切に行い、安全に就業する。	1. 夜勤・交代勤務におけるリスクマネジメントに自主的に取り組み、心身の健康を保持できる。	高井亜希看護教育科長 片方容子教育専任看護長	1月19日(木) 2名 3月7日(火) 1名	夜勤専従者としてのリスク管理について学び、自己管理の大切さや責任感を持って職務を果たすことの重要性について学ぶ機会となった。
ソワニエ会 (男性看護師会) 研修	1. 将来を見据えた主体的なキャリア開発および働きやすい職場づくりを行う。	1. 職員間の交流を深め、自己のキャリアを発展させる示唆を得ることができる。 2. やりがいを持って看護を實踐できる職場環境について考えることができる。	山村真巳看護長 鳥本祿郎 古橋憲明	5月30日(月) 13:30~15:00 参加者:55名 8月9日(火) 13:30~15:00 参加者:53名 10月24日(月) 13:30~15:00 参加者:38名 12月5日(月) 13:30~15:00 参加者:33名 3月16日(木) 13:30~15:00 参加者:28名	第1回は「男性看護師の可能性を考える」をテーマにディスカッションを行い、キャリアデザインについて考える機会となった。第2回は「自分の看護の信念」「メンター」「理想とする看護師像」について話し合う機会となった。第3回は、「安全、感染の視点で自部署の現状を把握する」を目的に、自部署の改善事項を明確にする機会となった。第4回は、改善事項を元にスタッフ向けの注意喚起のポスター制作を行った。第5回は「こんな制度があったらいいな」をテーマに、男性看護師の視点で提案を行う機会となった。
トーキングカフェ	1. 交代勤務をしている職員の交流を通して職場環境の改善を考え、やりがいを持って勤務を継続する。	1. 職場環境を整え、職務満足度を高める取り組みを明確にすることができる。 2. 看護部全体やセクションで取り組む改善策について、協働して活動を推進できる。	岡北満喜子看護長 中川葉子看護長 各セクションスタッフ	9月21日(木) 14:00~15:00 参加者:22名 10月4日(水) 14:00~15:00 参加者:7名 10月19日(木) 14:00~15:00 参加者:8名 1月27日(金) 14:00~15:00 参加者:8名 2月10日(金) 14:00~15:00 参加者:14名	働きやすい職場づくりについてディスカッションを行い、自己およびセクションの取り組む課題を検討した。セクションに留まらず、看護部全体で取り組む内容についても検討し、よりよい職場環境づくりについて意見交換を行う機会となった。
LIPランチ	1. セクションの課題について仲間や看護部と共有しながら問題解決を図り職場環境改善につなげる。	1. セクションの強み・弱みを整理し、取り組む課題に気づくことができる。 2. 共通認識した課題を通して、自己の役割を見出すことができる。	眞野恵子看護部長 曾我みゆき看護副部長 小野臨床看護科長 高井看護教育科長 各セクションスタッフ	6月1日(木) 内科外来 6月15日(水) 3-12 7月8日(金) 内視鏡 8月25日(木) 1-6B 9月6日(火) 5N 9月21日(水) 7S 9月29日(木) 診療補助 10月27日(木) 3-6 11月11日(金) 1-6A 11月15日(火) 1-7A 12月21日(水) 3-B1 1月6日(金) 8S 3月21日(火) 3-7 3月24日(金) 3-11	看護職員同志、または看護職員と看護部との交流の場とし、ディスカッションを通してセクションの状況を共有した。セクションの良い点を更に活かし、また抱えている課題を解決する方法を検討し、個人および看護部それぞれが取り組む内容について考える機会となった。即解決に導かれる事柄もあり、職務満足度の向上に繋がったと考える。

## 藤田保健衛生大学病院 がん看護教育（基礎コース）

【研修名】 がん看護教育研修（基礎コース）

【研修目的】

がん看護に携わる看護師が、基礎的な知識を修得し、がん看護実践能力を培う。

【研修目標】

1. がん看護に必要な基礎的知識を修得し、臨床の場で活用することができる。
2. がん看護の基礎知識を基に看護を振り返る事ができる。

【対象者】

院内－学園ラダーSTEP1 に到達し、さらにがん看護に携わっている者

院外－地域の病院、訪問看護ステーションに勤務し、がん看護に1年以上携わっている者

【日時】

1. 第1回：平成28年 6月 11日（土） 9：30～15：50
2. 第2回：平成28年 10月 15日（土） 9：30～15：50

【場所】 藤田保健衛生大学病院内会議室

【内容】

1. 緩和ケア～入門編～ (60分)
2. 疼痛マネジメントの基礎知識 (90分)
3. がん患者とのコミュニケーション (60分)
4. がん患者の意思決定に対する看護師の役割 (90分)

【参加費】 無料

【研修実績】

1. 第1回参加者：10名（内訳：院内参加者5名、院外参加者5名）
2. 第2回参加者：33名（内訳：院内参加者18名、院外参加者15名）

## 藤田保健衛生大学病院 がん看護教育（応用コース）

【研修名】平成 28 年度 がん看護教育研修（応用コース）

【研修目的】

がん看護に携わる看護師が、がん看護実践に必要とされる専門的な知識・技術を修得し、看護展開ができ、後輩指導に活用できる。

【研修目標】

1. がん看護に必要な専門的知識・技術を修得し、看護援助に活用できる。
2. がん看護について学習した知識・技術を後輩指導に活用できる。

【対象者】

院内—学園ラダーSTEP1 に到達し、がん看護教育研修（基礎コース）の受講を修了していることが望ましい

院外—地域の病院、訪問看護ステーションに勤務し、がん看護歴が1年以上で、がん看護教育研修（基礎コース）の受講を修了していることが望ましい

【日時】

1. 第1回：平成 28 年 8 月 27 日（土） 9：30～16：10
2. 第2回：平成 28 年 12 月 10 日（土） 9：30～16：10

【場所】藤田保健衛生大学病院内会議室

【内容】

1. スキンケア（皮膚裂傷）の予防とケア (60分)
2. ボディイメージの変化に対するケア (60分)
3. がん患者のオーラルマネジメント (60分)
4. がん化学療法による皮膚障害 (60分)
5. エンドオブライフにおける緩和ケア (60分)
6. 看護が変わる、痛みのマネジメント (60分)

【参加費】無料

【研修実績】

1. 第1回参加者：14名（内訳：院内参加者13名、院外参加者1名）
2. 第2回参加者：27名（内訳：院内参加者11名、院外参加者16名）

## 藤田保健衛生大学病院 がん看護教育（発展コース）

【研修名】平成 28 年度 がん看護教育研修（発展コース）

【研修目的】

がん看護に携わる看護師が、がん看護実践に必要とされるより専門的な知識・技術を修得し、がん患者の特定のニーズをアセスメントし、個別的なケアが提供できる

【研修目的】

1. がん看護に必要な専門的知識・技術を修得し、患者個々に応じた看護援助に活用できる。
2. がん看護について学習した高度な知識・技術を後輩育成に活用できる。

【対象者】

がん看護教育研修（応用コース）の受講を修了しており、がんに関わる病棟または施設でリンクナースの役割やがん看護に関わる後輩育成の役割が果たせる者

【日時】

平成 29 年 2 月 25 日（土） 9：30～16：10

【内容】

1. がん患者の包括的アセスメント～全人的苦痛の 4 側面より～ (70 分)
2. がん患者のニーズに応じた多職種連携と看護師の役割 (70 分)
3. 患者の意思決定支援 ～基本的コミュニケーションスキルを用いて～ (120 分)
4. がん看護に関わる他施設看護師との交流 ～他施設の役割を知る～ (60 分)

【参加費】 無料

【研修実績】

参加者：14 名（内訳：院内参加者 10 名、院外参加者 4 名）

## 藤田保健衛生大学病院 認知症看護教育研修

【研修名】平成 28 年度 認知症看護教育研修

【研修目的】

認知症看護に携わる看護師が、基礎的な知識を修得し、認知症看護の実践能力を培う

【研修目標】

1. 認知症看護に必要な基礎知識を修得し、臨床の場で早期対応することができる
2. 認知症看護の基礎知識を基に認知症の人の個別性に合わせたゆとりある対応や生活障害に応じたバランスのとれた対応をすることができる。

【対象者】

院内—学園ラダーSTEP1 に到達し、さらに認知症看護に携わっている者

院外—地域の病院、訪問看護ステーションに勤務し、認知症看護に携わっている者

【日時】

1. 第 1 回：平成 28 年 8 月 27 日（土） 9：30～16：10
2. 第 2 回：平成 28 年 12 月 10 日（土） 9：30～16：10

【場所】藤田保健衛生大学病院内会議室

【内容】

1. 認知症の人を支える医療 (50 分)
2. 認知症の人を支える看護～認知症状の具体的な対応のポイント～ (50 分)
3. 認知症の人の暮らしを支える住まいと生活支援 (50 分)
4. 認知症の人の嚥下障害～口から食べることを目指すケア～ (50 分)
5. 認知症とよく似た高次脳機能障害について～有酸素運動～ (50 分)
6. 認知症の人の暮らしを支える施策～認知症対策の担い手になろう～ (50 分)

【参加費】無料

【研修実績】

1. 第 1 回参加者：65 名（院内参加者：13 名、院外参加者：52 名）
2. 第 2 回参加者：119 名（院内参加者：17 名、院外参加者：102 名）

## 藤田保健衛生大学病院 認知症サポートケア研修

【研修名】平成 28 年度 認知症ケアサポート研修

【研修目的】

認知症を正しく理解し、認知症の人が地域で健やかに暮らせるような知識を培う

【研修目標】

1. 認知症の人に対する理解を深め、ケアアプローチに参画する一員として対応する事ができる。
2. 認知症ケアに対する基礎知識を修得し、個別性のある支援を提供できる。

【対象者】

認知症の人をサポートする多職種

(看護師、作業・理学療法士、薬剤師、介護職員、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士、  
歯科衛生士、ケアマネージャー、訪問介護員など)

【日時】

1. 第 1 回：平成 28 年 10 月 15 日（土） 9:30～16:10
2. 第 2 回：平成 29 年 2 月 25 日（土） 9:30～16:10

【場所】藤田保健衛生大学病院内会議室

【内容】

1. 認知症の人の暮らしを考える施策 ～やさしい地域づくり～ (50 分)
2. 認知症の人を支えるケア ～「こころ」を理解するケア～ (50 分)
3. 認知症リハビリテーション ～アクティビティ・ケアとその工夫～ (50 分)
4. 認知症の人に多い健康障害 ～肺炎・脱水予防を目指すケア～ (50 分)
5. 認知症ケア ～セルフケア能力向上を目指すケアの実際～ (50 分)
6. 認知症をもつがん患者 ～緩和ケアにおける倫理的配慮～ (50 分)

【参加費】無料

【研修実績】

1. 第 1 回参加者：120 名（院内参加者：5 名、院外参加者 115 名）
2. 第 2 回参加者：117 名（院内参加者：15 名、院外参加者 102 名）

# 平成28年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会 プログラム

(敬称略)

- 9:25-9:30 開会挨拶  
一般社団法人日本病院薬剤師会 副会長 土屋 文人
- 9:30-10:00 医療安全をめぐる最近の話題2016  
(30分) 一般社団法人日本病院薬剤師会 副会長 土屋 文人
- 10:00-10:30 医療情報活用のための最近の話題2016  
(30分) 奈良県立医科大学附属病院 薬剤部係長 池田 和之
- 10:30-11:00 医薬品安全管理責任者に伝えたい医療機器をめぐる最近の話題2016  
(30分) (独) 医薬品医療機器総合機構 安全第一部 医療機器安全課
- 11:00-11:20 \* 休憩 \*
- 11:20-11:50 薬局における医薬品安全対策の取り組み2016  
(30分) 一薬局ヒヤリ・ハット報告(疑義照会)からみる医療機関・薬局連携—  
公益社団法人日本薬剤師会 医療安全委員会
- 11:50-12:20 医薬品安全管理に関する最近の厚生労働行政について2016  
(30分) 厚生労働省医薬・生活衛生局 安全対策課安全使用推進室
- 12:20-12:50 製薬企業における医薬品安全対策の取り組み2016  
(30分) 日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 PMS 部会
- 12:50-13:40 \* 昼食 \*
- 13:40-14:10 安全で安心な薬物治療のために 報道事例から学ぶ2016  
(30分) 山口大学大学院医学系研究科・医学部附属病院 薬剤部長 古川 裕之
- 14:10-14:40 医薬品安全管理責任者に知ってほしいPMDAの安全性情報の収集・発信2016  
(30分) 医薬品医療機器総合機構(PMDA) 安全第一部  
リスクコミュニケーション推進課 情報管理課
- 14:40-15:10 医療安全管理者から医薬品安全管理責任者にのぞむこと2016  
(30分) 医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 情報管理部医療安全管理課 課長 渡邊 幸子
- 15:10-15:25 \* 休憩 \*
- 15:25-15:55 医療事故報告制度について—改正薬剤師法がどう影響するか—  
(30分) 一般社団法人日本病院薬剤師会 副会長 土屋 文人
- 15:55-16:55 質疑応答  
(60分)
- 16:55-17:00 閉会挨拶・終了

※ 都合により講義の順序・演者等が変わる場合がございますのでご了承ください。

主催：日本病院薬剤師会 医療安全対策委員会

平成28年度 感染防止対策委員会 出欠席表

	氏名	役職	規程 第2条の 該当項	委任・ 代理	代理者 氏名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
委員長	湯澤 由紀夫	病院長	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
委員	今泉 和良	中央診療部長 呼吸器内科 教授 健康管理室 感染担当	6、10	委任		欠 (学会)	欠 (学会)	○	欠 (講義)	○	○	○	○	○	○	○	○	
委員	西田 修	集中治療部長	10	委任		○	○	○	○	○	○	欠 (学会)	○	○	○	○	○	
委員	白木 良一	医療の質・安全対策部長	10	委任		欠 (手術)	欠 (手術)	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	
委員	高木 靖	手術・診療材料部長	10	委任		○	欠 (学会)	○	○	○	○	欠 (手術)	○	○	○	○	○	欠 (会議)
委員	眞野 恵子	看護部長	2	代理	看護副部長 曾我みゆき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
委員	石井 潤一	臨床検査部長	3	代理	副部長 石川隆志	○	○	○	○	加藤	○	○	○	○	○	○	○	
委員	桑原 浩	事務局長	4	代理	総務部長 石川大地	○	○	○	代 石川	○	代 石川	○	代 石川	○	○	○	○	
委員	吉川 哲史	小児科 教授	6	委任		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	H29.2月～委員
委員	山田 成樹	薬剤部長	7	代理	課長 鈴木孝幸	○	欠	○	○	○	○	○	代 太田	○	○	○	○	
委員	水谷 英樹	口腔外科 教授	8	代理	講師 佐藤公治	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
委員	東口 高志	食養部長	10	代理	副部長 鈴木敬詞	○	○	○	代 鈴木	○	代 伊藤	○	代 伊藤	○	○	○	○	
委員	岩田 充永	総合救命救急センター長	10	委任		○	欠 (出張)	欠 (出張)	○	欠 (出張)	○	○	○	○	○	○	○	～H28.9.30センター長代行 H28.10.1～センター長
委員	石川 清仁	感染対策室 室長 感染症専門医 専従ICD	5	委任		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
委員	岡本 晃直	感染対策室 兼任医師	10	委任		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	欠	H28.4.1～委員
委員	梶川 智弘	感染対策専任者 感染管理認定看護師	9	委任		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
委員	石田 佳子	感染対策専任者 感染管理認定看護師	9	委任		/	/	/	/	/	/	○	○	○	○	○	○	H28.9.1～委員
委員	上原 悦子	感染対策専任者	9	委任		/	/	/	/	/	/	○	○	○	○	○	/	H28.10.1～H29.2.28 委員
委員	中川 雅貴	感染対策専任者	9	委任		○	○	○	○	○	○	/	/	/	/	/	/	H28.4.1～委員 H28.9.3～感染管理認定 看護師養成校通学中
オブザー バー	堤 寛	病理学 教授 感染対策オブザーバー	10	委任		欠	欠 (学会)	○	○	○	欠 (講義)	欠 (研究会 準備)	欠 (学会)	○	○	/	/	～H29.1.31委員 オブザーバーとして参加
	内藤 健晴	耳鼻咽喉科 教授 病院長アドバイザー	10	委任		○	○	○	欠 (学会)	○	欠 (学会)	○	○	○	○	/	/	～H29.1.31委員
	尾崎 行男	副院長	10	委任		欠 (学会)	○	○	欠 (出張)	欠 (出張)	欠 (学会)	○	○	○	○	/	/	～H29.1.31委員
	廣瀬 雄一	副院長 医療の質・安全対策部長	10	委任		○	○	○	○	○	○	欠 (出張)	○	○	○	/	/	～H29.1.31委員
	吉田 俊治	リウマチ感染症内科 教授	6	委任		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠 (休講 不具)	/	～H29.1.31委員
出席者数						17/21	15/21	20/21	18/21	19/21	17/22	18/22	21/22	22/22	21/22	18/18	15/17	

平成28年度 感染対策に関する院内研修

開催日	研修会名	内容	講師	対象職種	参加者数	会場
H28.4.1 1	新採用者 オリエンテーション	感染対策と活動内容	感染対策室 室長 石川 清仁 (感染対策専従医師)	新採用医師	新採用者:61名 (採用者:77名) (当日不参加者は、DVD及び各医局オリエンテーションにて受講済み)	フジタホール2000
H28.4.4 2	新採用者 オリエンテーション	院内感染対策について	感染対策室 室長 石川 清仁 (感染対策専従医師)	新採用職員	事務:12名、食養部:3名、薬剤部:14名、放射線部:8名、臨床検査部:16名、 リハビリテーション部:33名、医療ソーシャルワーカー:2名、看護部:154名、中央診療部:2名 合計 244名	フジタホール500
H28.4.5 3	新採用者 オリエンテーション	業務上傷病について	衛生委員会 衛生委員 木下 輝美	新採用職員		
H28.4.6 4	新研修医 オリエンテーション	院内感染対策について	感染対策室 室長 石川 清仁 (感染対策専従医師) 感染管理認定看護師 梶川 智弘 ICT委員	新採用研修医	新研修医:27名 (採用者:27名)	外来棟403講義室
H28.5.16~20 5	手洗い研修			全職員(任意) 外部委託業者	医師:207名、研修医:52名、看護部:1,333名、中央診療部:5名、臨床検査部:108名、 リハビリテーション部:42名、食養部:24名、事務:111名、医療情報システム部:11名、 放射線部:110名、薬剤部:30名、施設部:11名、その他:43名 学園職員:4名、派遣職員:8名、委託職員:189名、学生:12名、院外:12名 院内合計 2087名、その他合計 215名	医学部1号館B 1F 実習室
H28.7.6 6	HIV感染症セミナー		感染対策室 室長 石川 清仁 (感染対策専従医師)	全職員(任意)	医師:2名、研修医:1名、薬剤部:8名、臨床検査部:4名、看護部:22名、事務:1名、 学生:4名、院外:3名 院内合計 38名、その他合計 7名	生涯教育研修センター1棟 601講義室
H28.7.15 7	第1回 感染対策研修会 DVD上映会:13回	手指衛生と手荒れ	医学部 7レキ-疾患対策医療学 教授 松永 佳世子	全職員(必須)	医師:496名、研修医:56名、食養部:55名、薬剤部:115名、放射線部:118名、 臨床検査部:150名、リハビリテーション部:123名、中央診療部:7名、看護部:1,424名、 事務局:178名、医療情報システム部:11名、施設部:25名、その他:43名 学園職員:7名、医学部・医療科学部教員等:33名、派遣・委託職員:13名 院内合計 2,801名、その他合計 53名	フジタホール2000 DVD上映会:フジタホール500 外来棟403・402・401講義室 外来棟503・502講義室
H28.9.21 8	結核セミナー	医療関係者の結核診療 への取り組み方について	呼吸器内科 講師 後藤 康洋	全職員(任意)	医師:5名、研修医:4名、薬剤部:4名、臨床検査部:1名、看護部:27名、事務:3名 院外:4名 院内合計 44名、その他合計 4名	外来棟403講義室
H28.10.26 9	ウイルス性肺炎セミナー		感染管理認定看護師 梶川 智弘	全職員(任意)	医師:2名、研修医:1名、薬剤部:11名、看護部:57名、事務:3名、 学生:4名、院外:3名 院内合計 74名、その他合計 7名	外来棟403講義室
H28.11.1 10	インフルエンザセミナー		感染対策室 室長 石川 清仁 (感染対策専従医師)	全職員(任意)	医師:2名、薬剤部:9名、臨床検査部:3名、看護部:35名、事務:3名、施設部:1名、 学生:9名、院外:2名 院内合計 53名、その他合計 11名	外来棟402講義室
H28.12.2 11	第2回 感染防止対策研修会 DVD上映会:15回	非“専門家”のための HIV感染症との関わり方	国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター 医療情報室長 塚田 訓久	全職員(必須)	医師:501名、研修医:56名、食養部:56名、薬剤部:117名、放射線部:117名、 臨床検査部:150名、リハビリテーション部:120名、中央診療部:7名、看護部:1,388名、 事務局:179名、医療情報システム部:11名、施設部:24名、その他:45名 医学部・医療科学部教員:28名、派遣・委託職員:2名、近隣医療施設:1名 医学部学生:31名、 院内合計 2,711名、その他合計 243名	フジタホール2000 DVD上映会:フジタホール500 外来棟401・402・403講義室 外来棟503・502講義室
H29.3.6 12	平成28年度 医療の質・安全対策部 報告会		感染対策室 室長 石川 清仁 (感染対策専従医師)	全職員(任意)	医師:19名、研修医:4名、食養部:1名、薬剤部:1名、放射線部:4名、 臨床検査部:5名、リハビリテーション部:4名、看護部:106名、事務局:15名、その他:2名 院内合計 161名	フジタホール500
H29.3.2、3、10 13	平成28年度 委託業者研修		感染管理認定看護師 石田 佳子	委託職員(任意)	委託職員:141名(8社)	1号棟1F 食堂前会議室